SONY

3-620-374-07 (2)

# ネットワークカメラ

## ユーザーガイド

### ソフトウェアバージョン 3.1

**お買い上げいただきありがとうございます。**

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このユーザーガイドをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

# SNC-RZ30N

***Version 2***

# 目次

## はじめに



## カメラの操作



## カメラの設定

## その他

## はじめに

- ネットワークカメラを使用することにより、インターネットを通じて容易にカメラ映像にアクセスすることができます。一方で第三者によりネットワークを通じてモニタリング画像および音声を閲覧、使用等される可能性があります。ネットワークカメラの設置およびご利用については、被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、お客様の責任で行ってください。
- ネットワークカメラへのアクセス権限は、ユーザー名およびパスワードを設定することにより行われます。それ以上のカメラによる認証作業は行われません。
- 諸事情による本ネットワークカメラに関連するサービスの停止、中断について、ソニーは一切の責任を負いません。
- ワイヤレス LAN をご使用時にはセキュリティの設定をすることが非常に重要です。
  セキュリティ対策を施さず、あるいはワイヤレス LAN の仕様上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。
- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品の使用によりデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

# CCD 特有の現象

撮影画面に出る下記の現象は、CCD（Charge Coupled Device）特有の現象で、故障ではありません。

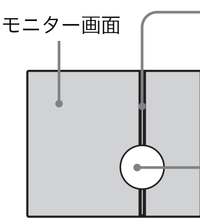
### 白点

CCD 撮像素子は非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。
これは CCD 撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。

また、下記の場合、白点が見えやすくなります。
- 高温の環境で使用するとき
- ゲイン（感度）を上げたとき
- スローシャッターのとき

### スミア現象

強いスポット光やフラッシュ光などを撮影したときに、画面上に縦線や画乱れが発生することがあります。）




### 折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

# このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラ SNC-RZ30N をコンピューターから操作する方法を説明しています。
このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。
ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

## 関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

## ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

## ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを完全に再現できないことがありますが、ご了承ください。

## 設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

## カメラの操作

この章では、Web ブラウザを使ってカメラの画像をモニターする方法を説明しています。
カメラの設定については、「カメラの設定」（16 ページ）をご覧ください。

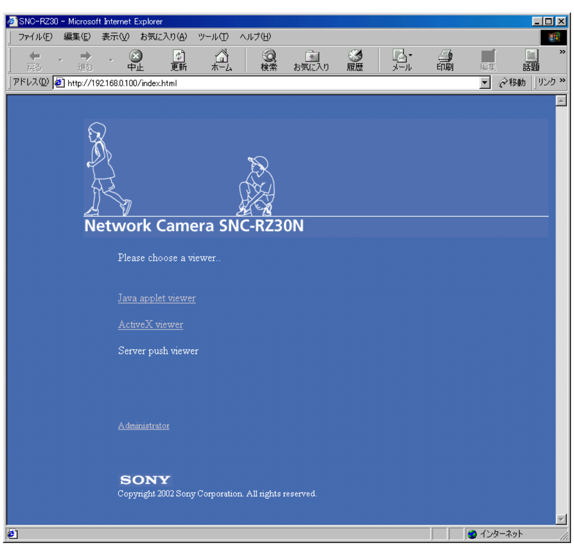
# ホームページへログインする
## ーウェルカムページ

### ユーザーとしてログインする

**1** コンピューターで Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスを IP アドレス欄に記入する。




「Network Camera SNC-RZ30」のウエルカムページが表示されます。




**2** ビューアーを選択する。
[Java applet viewer]、[ActiveX viewer]、[Server push viewer］の中から、システム環境や使用目的に応じたビューアーをクリックして選びます。
詳しくは、「ビューアーについて」（7 ページ）をご覧ください。
ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます（9 ページ)。

**ご注意**

ウェルカムページを正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを［中］以下に設定してください。

**1** Internet Explorer のメニューバーから［ツール］—［インターネットオプション］—［セキュリティ］タブの順に選択する。

**2** [インターネット]アイコン(本機をインターネット環境で使用しているとき)、または［イントラネット］アイコン（本機をイントラネット環境で使用しているとき）をクリックする。

**3** レベルバーを操作して［中］以下にする。(レベルバーが表示されていない場合は、[既定］ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。)

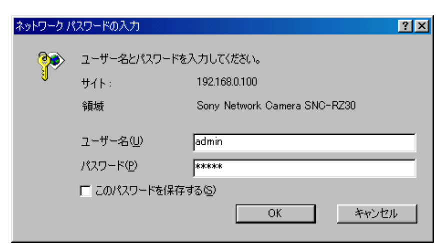
### コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合

- コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示される Web ページには Java スクリプトを使用しています。ご使用になるコンピューターでウィルス対策ソフトウェアをお使いの場合には、ページが正しく表示されない場合があります。

### 管理者（Administrator）としてログインする

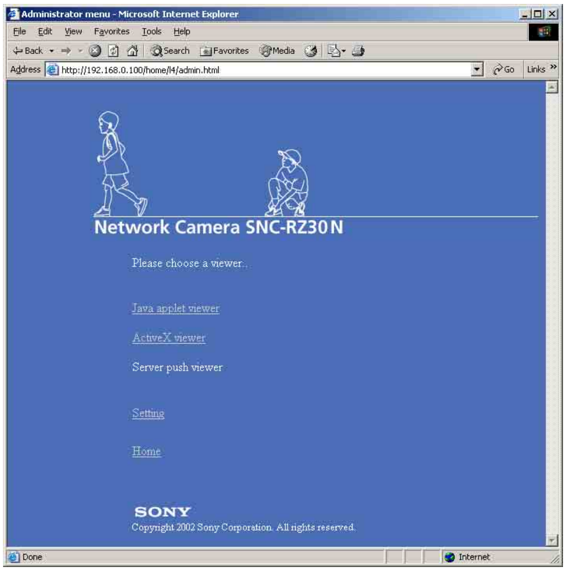
管理者としてログインすると、本機のすべての設定を行うことができます。管理者は、ユーザーアクセス数に関係なく、いつでもログインできます。

**1** ウエルカムページの [Administrator] をクリックする。
ログインページが表示されます。




**2** 管理者用のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。
管理者用のユーザー名とパスワードは、工場出荷時には「admin」が設定されています。ユーザー名とパスワードは、管理者設定メニューの User 設定ページで変更できます（28 ページ)。

管理者用のウェルカムページに切り換わります。




**3** ビューアーを選択する。
[Java applet viewer]、[ActiveX viewer]、[Server push viewer］の中からシステム環境や使用目的に応じたビューアーをクリックして選びます。
詳しくは、「ビューアーについて」（7 ページ）をご覧ください。
ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます（9 ページ）。

## 管理者用ウェルカムページの他の機能

### Setting

ここをクリックすると管理者設定メニュー（16 ページ）が表示されます。

### Home

ここをクリックすると通常のウエルカムページに戻ります。

# ビューアーについて

本機では、次の 3 つのビューアーが選択できます。

## Java applet viewer

Internet Explorer、Netscape 両方のブラウザでの動作が可能です。
Java を利用してメインビューアーページを表示します。
このビューアーを選択すると、本機のすべての機能が利用できます。

**ご注意**

・フレームレートは他のビューアーに比べると低くなります。
・正常に動作しない場合は、以下のようにして Java をインストールするか、有効にしてください。

### Internet Explorer を使用する場合：

Java applet viewer は、Java がインストールされていて、かつ Java (Sun) が有効になっていないと動作しません。
Java applet viewer が正しく動作しない場合は、有効なバージョンの Java が正常にインストールされていることと、Java (Sun) が有効になっているかどうかを確認してください。
有効なバージョン：Java Plug-in Ver. 1.6.0_01

### Java のバージョンを確認するには

Internet Explorer のメニューバーから［ツール］、［インターネットオプション］、［詳細設定］タブの順に選択し、[Java (Sun)］に表示されている Java のバージョンが上記のバージョンであることを確認します。[Java (Sun)］項目が表示されない場合は Java がインストールされていませんので、インストールが必要です。

### Java Plug-in を有効にするには

[Java (Sun)］の［<applet> に JRE 1.6.0_01 を使用 (再起動が必要)］にチェックします。

### Java Plug-in をインストールするには

Sun Microsystems 社のホームページから、Java2 Runtime Environment、Standard Edition（JRE）をダウンロードし、インストーラーの指示に従ってインストールします。

### Netscape をインストールして使用する場合：

Netscape をインストールする際に、同時に Java をインストールしてください。
インストーラーの指示に従って Java をインストールした後、Netscape のメニューバー から、[ 編集 ] － [ 設定 ] － カテゴリの [ 詳細 ] の順に選択 し、[Java を有効にする ] にチェックします。

### Netscape を使用するとき、Java がインストールされていない場合：

Netscape の「Plug-in Download Page」から Java をインストールします。

### Netscape を使用するとき、Java がインストールされているが、正常に動作しない場合：

コンピューターにインストールされている Java Plug-in のバージョンが、以下に示したバージョンと同じであることをご確認ください。もし異なる場合は、既にインストールされている Java Plug-in をアンインストールして、以下のバージョンをインストールしてください。

Java Plug-in  Ver. 1.6.0_01

・ Java Plug-in のバージョンを確認するには
  Windows の［スタート］ボタン－［設定］－［コントロールパネル］の順に選択するとバージョンが表示されます。

・ Java Plug-in をインストールするには
  Sun Microsystems 社のホームページから、Java2 Runtime Environment、Standard Edition（JRE）をダウンロードし、インストーラーの指示に従ってインストールします。その後、Netscape のメニューバーから［編集］－［設定］－カテゴリの［詳細］の順に選択し、［Java を有効にする］にチェックします。

## ActiveX viewer

Internet Explorer ブラウザでの動作が可能です。
ActiveX を使用してメインビューアーページを表示します。
このビューアーを選択すると、高フレームレートの表示が可能で、本機のすべての機能が利用できます。
初めて Internet Explorer を使って本機にログインすると、「セキュリティ警告」が表示されます。「はい」をクリックして ActiveX コントロールをインストールしてください。

**ご注意**

・ Windows NT4.0 または Windows 98 をお使いで、画像を表示できない場合は、付属の CD-ROM に収録されている、MFC42DLL Version Up Tool をインストールしてください。
・ Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動構成にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動構成を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
・ ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。
・ Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合、［Enter］をクリックしたとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。詳しくは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」（55 ページ）、または「Windows Vista をご利用の場合－ ActiveX コントロールのインストールについて」（57 ページ）をご覧ください。

## Server push viewer

Netscape ブラウザでの動作が可能です。
このビューアーを選択すると、Netscape が標準でサポートしている Server push 技術を使用してメインビューアーページが表示されます。

**ご注意**

・ Server push viewer では、時刻表示、ポップアップ表示、表示画像サイズ機能が使用できません。
・ Server push viewer では、VGA などの大きな画像サイズで高フレームレートに設定すると、コンピューターがフリーズする場合があります。ご使用のコンピューターの能力に合わせて、メインビューアーページの Frame rate（10 ページ）、または Camera 設定ページの Image size（20 ページ）を調整してください。
・ Server push viewer をお使いの場合、画像表示が停止することがあります。この場合、ブラウザの［更新］をクリックすることで、再び画像を表示することができます。

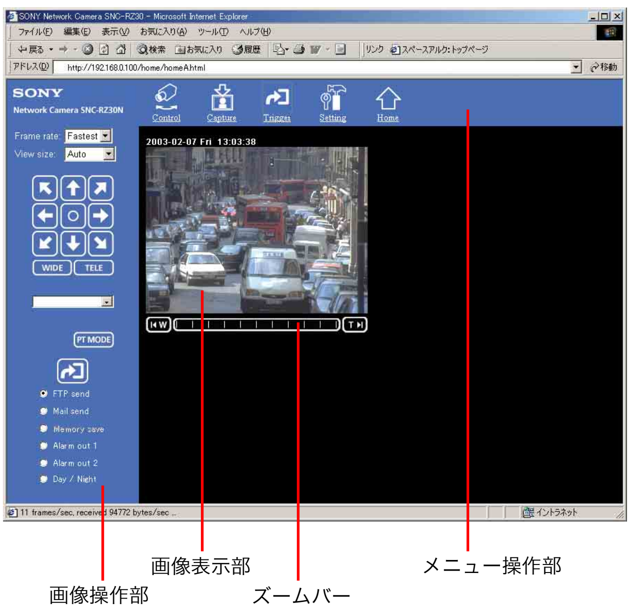
**補足**

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の場合は表示文字サイズ［中］、Netscape の場合は表示文字サイズ［100%］で最適化されています。

# メインビューアーページの構成

ビューアーを選択すると、メインビューアーページが表示されます。
ここでは、メインビューアーページの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

**メインビューアーページ**

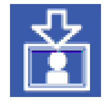



## メニュー操作部

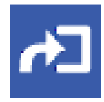
ユーザーアクセス権により 、操作できる機能が限定されます。ユーザーアクセス権は User 設定ページ（28 ページ）で変更できます。


Control

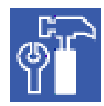
画像操作部にカメラ操作部を表示します。（「画像操作部からカメラを操作する」11 ページ）
また、画像表示部からカメラのパン、チルト、ズーム操作ができるようになります。（「画像上からパン、チルト、ズームを操作する」13 ページ）
この操作にはユーザーアクセス権「Level 2 ～ 4」が必要です。


Capture

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピューターに保存します。（「モニター画像をキャプチャーする」15 ページ）


Trigger

画像操作部にトリガー操作部を表示します。
トリガーボタンをクリックすると、マニュアルでアプリケーションを操作できます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ）
この操作には、ユーザーアクセス権「Level 3 ～ 4」が必要です。

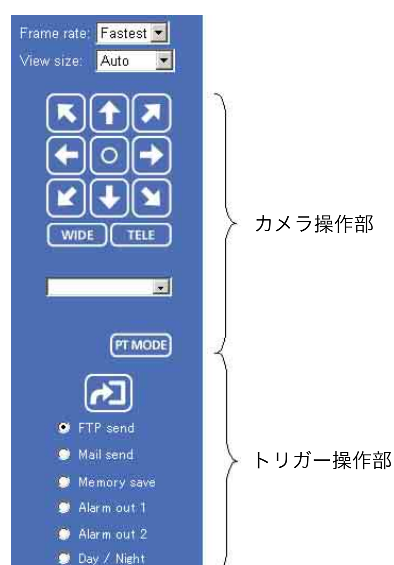

Setting

管理者設定メニューページを表示します。（「管理者設定メニューページの構成」16 ページ）
この操作には、ユーザーアクセス権「Level 4」が必要です。


Home

ウエルカムページを表示します。

## 画像操作部



### Frame rate

配信する画像のフレームレートを選択します。(「フレームレートを選択する」10 ページ)

### View size

画像の表示サイズを選択します。(「画像表示サイズを選択する」10 ページ)

### カメラ操作部

メニュー操作部の Control ボタンをクリックすると表示されます。カメラを操作できます。(「画像操作部からカメラを操作する」11 ページ)

### トリガー操作部

メニュー操作部の Trigger ボタンをクリックすると表示されます。トリガーを出力します。(「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ)

## 画像表示部




カメラの画像を表示します。
メニュー操作部の Control ボタンをクリックするとカメラのパン、チルト、ズームを操作できます。(「画像上からパン、チルト、ズームを操作する」13 ページ)

## ズームバー

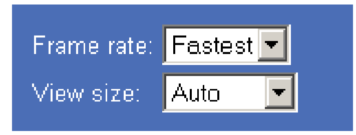



メニュー操作部の Control ボタンをクリックすると表示されます。カメラのズーム(光学)を操作できます。
(「ズームバーを使ってズームを操作する」13 ページ)

# モニター画像を操作する

メインビューアーページの画像操作部からモニター画像を操作できます。

**画像操作部**




### フレームレートを選択する

[Frame rate] リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。
選択可能なフレームレートは、[1]、[2]、[3]、[4]、[5]、[6]、[8]、[10]、[15]、[20]、[25]、[Fastest] です。数字は "FPS"(1 秒間に配信されるフレーム数)を示します。
[Fastest] を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度(最大 30 FPS)で配信されます。

**ご注意**

選択されたフレームレートは配信されるフレームの最大値を示します。
ご使用のコンピューターや、接続されているネットワーク環境、カメラの設定(画像サイズ、画質選択)により実際のフレームレートは異なります。

### 画像表示サイズを選択する

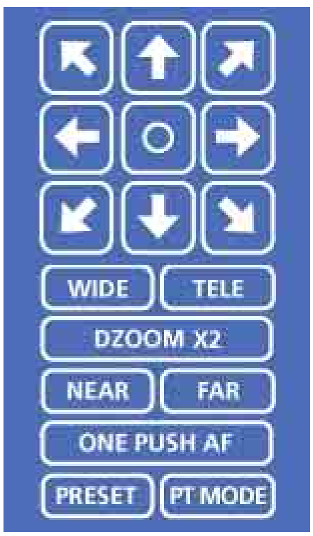
[View size] リストボックスをクリックして、[Auto]、[640 × 480]、[320 × 240]、[160 × 120] の 4 種類から画像表示サイズを選択します。
[Auto] を選択すると、Camera 設定ページの Image size(20 ページ)で選択した画像サイズで表示されます。

# 画像操作部からカメラを操作する

メインビューアーページの画像操作部からカメラを操作できます。
ユーザーアクセス権「Level 2 ～ 4」が必要です（28ページ）。

メニュー操作部の Control ボタンをクリックするとカメラ操作部が表示されます。

**画像操作部（カメラ操作部）**



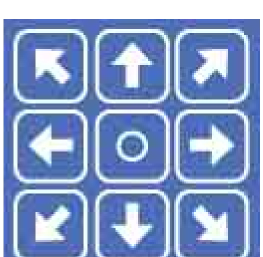

## パン、チルトを操作する

8 方向の矢印ボタン、またはタブレットを使ってパン、チルト操作ができます。

### パン、チルトモードを切り換える

PT MODE をクリックします。クリックするたびに 8 方向矢印モードとタブレットモードが切り換わります。

### 8 方向矢印ボタンを使ったパン、チルト操作



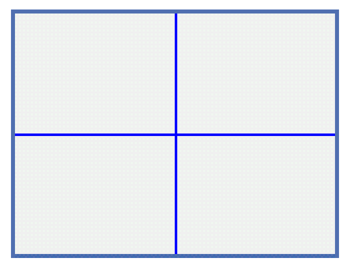
現在表示されているモニター画像に対して、カメラを移動したい方向の矢印ボタンをクリックします。カメラの向きが移動して、モニター画像が表示されます。
矢印ボタンをクリックし続けると連続的にカメラの向きが移動します。

をクリックすると、工場出荷時のホーム位置にカメラが移動します。

**ご注意**

- System 設定ページの Exclusive control mode（18 ページ）が [On] に設定されている場合は、 の代わりに操作権限の残り時間が表示されます。
- 8 方向矢印ボタンを使ったパン、チルト操作の動作モードは、Camera 設定ページの Camera control mode setting 部（23 ページ）で切り換えることができます。設定を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。

### タブレットを使ったパン、チルト操作



PT MODE ボタンをクリックすると、8 方向矢印ボタンの代わりにタブレットが表示されます。タブレットは表示画像に対応しています。
タブレット上でマウスをクリックすると、クリックした位置が画像の中央になるようにカメラの向きが移動します。
さらにカメラの向きを移動させたいときは、タブレット内でマウスをクリックし、移動したい方向にドラッグします。カメラはドラッグした方向に移動します。マウスを押し続けると連続的にカメラの向きが移動します。

**ご注意**

- Camera 設定ページの Area setting（21 ページ）で画像の切り出しを行っている場合でも、タブレットは切り出しを行っていない画像全体に対応しています。
- System 設定ページの Exclusive control mode（18 ページ）が [On] に設定されている場合は、タブレットの右下部に操作権限の残り時間が表示されます。

## カメラのズームを操作する

**TELE**

クリックすると、ズームインします。

**WIDE**

クリックすると、ズームアウトします。

**ご注意**

TELE/WIDE ボタンを使ったズーム操作の動作モードはCamera 設定ページの Camera control mode setting 部（23 ページ）で切り換えることができます。設定を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。

**DZOOM X2**

Camera 設定ページの Zoom mode を［Optical only］に設定した場合、このボタンをクリックすると、電子 2 倍ズームが動作します。
ボタンの表示は［DZOOMx1］に変わります。

**DZOOM X1**

Camera 設定ページの Zoom mode が［Optical only］のとき、電子 2 倍ズームが動作中は、このボタンが表示されます。クリックすると、電子 2 倍ズームが解除されます。
ボタンの表示は［DZOOMx2］に変わります。

### ズーム範囲について

Camera 設定ページの Zoom mode（21 ページ）を［Full］に設定した場合は、光学 25 倍、電子 12 倍トータルで 300 倍までのズームが可能です。光学ズームが動作した後、電子ズームが動作します。
Zoom mode を［Optical only］に設定した場合は、光学 25 倍のズームが可能です。また、［DZOOMx2］をクリックすると電子 2 倍ズームが動作します。
[DZOOMx1] をクリックすると電子ズームは解除されます。

**ご注意**

Camara 設定ページの Zoom mode を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。

## カメラのフォーカスを合わせる

Camera 設定ページの Focus mode を［Auto］に設定すると、自動でフォーカス調整されます。また、［Manual］に設定すると、画像操作部からフォーカスをマニュアルで調整したり、ワンプッシュでフォーカスを合わせることができます。

**NEAR** **FAR**

2 つのボタンをクリックしながら、マニュアルでフォーカスを調整します。

**ONE PUSH AF**

クリックすると、ワンプッシュでフォーカスを合わせることができます。

**ご注意**

- Camera 設定ページの Focus mode を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。
- NEAR/FAR ボタンを使ったマニュアルフォーカス操作の動作モードは、Camera 設定ページの Camera control mode setting 部（23 ページ）で切り換えることができます。設定を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。
- NEAR、FAR、ONE PUSH AF ボタンが表示されていないときは、画像操作部の FOCUS ボタンをクリックしてください。3 つのボタンが表示され、FOCUS ボタンの表示は [PRESET] に変わります。

## プリセット位置にカメラを移動する

**PRESET**

クリックすると PRESET リストボックスが表示されます。
ボタンの表示は [FOCUS] に変わります。

### PRESET リストボックス

リストボックスからプリセットポジション名を選択すると、Preset position 設定ページ（30 ページ）で記憶させた位置にカメラを移動できます。

# 画像上からパン、チルト、ズームを操作する

画像上でマウスを操作することによって、カメラのパン、チルト、ズームを操作できます。また、画像下のズームバーを使ったズーム操作もできます。
ユーザーアクセス権「Level 2～4」が必要です（28ページ）。

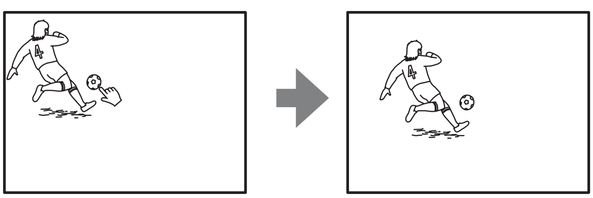
メニュー操作部の Control ボタンをクリックすると操作できるようになります。

**ご注意**

Server push viewer では、画像上からパン、チルト、ズームを操作できません。

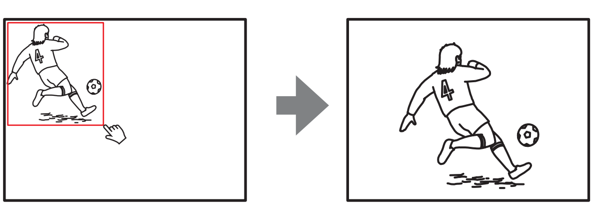
## 画像をクリックしてパン、チルトを操作する

画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が画像の中央になるようにカメラの向きが移動します。



## 拡大したい範囲を指定してパン、チルト、ズームを操作する

画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグし、拡大したい部分を赤い枠で囲みます。枠で囲まれた部分が画面中央に表示されるように、カメラの向きが移動し、同時にズームインします。



**ご注意**

- カメラ設定ページの Zoom mode で [Full] を選択している場合、範囲を指定してズームインすると、光学ズームの TELE 端で、いったん、ズームイン動作が停止します。さらに電子ズームを使ってズームインしたいときは、もう一度範囲を指定してください。
- 範囲を指定してズームインすると、選択した範囲が画像の中央からずれたり、外れて表示される場合があります。このときは、中央に表示したい場所をクリックするか、画像操作部の矢印ボタンをクリックしてください。

## マウスのセンターホイールを使ってズームを操作する

ActiveX viewer で画像を表示している場合は、マウスのセンターホイールを使って、ズーム操作を行うことができます。センターホイールを前方へ回すとズームインし、手前へ回すとズームアウトします。

**ご注意**

- センターホイールのないマウスをお使いの場合、この機能は使用できません。
- Java applet viewer または Server push viewer をお使いの場合、この機能は使用できません。
- ご使用のコンピューターの環境によっては、正しく動作しない場合があります。

## ズームバーを使ってズームを操作する

画像の下に表示されるズームバーを使ってカメラの光学ズーム（1～25 倍）を操作できます。




T をクリックすると TELE 端（25 倍）にズームインします。
W をクリックすると WIDE 端（1 倍）にズームアウトします。
ズームバー上をクリックすると、クリックした位置に対応した倍率にズームインまたはズームアウトします。

**ご注意**

- Server push viewer をお使いの場合、この機能は使用できません。
- カメラ設定ページの Zoom mode で [Full] を選択している場合でも、ズームバーでは光学ズーム（1～25 倍）の操作だけが可能です。

# マニュアルでアプリケーションを操作する

メインビューアーページの画像操作部から画像を送信したり、アラーム出力を制御するトリガーを出力できます。ユーザーアクセス権「Level 3 ～ 4」が必要です（28 ページ）。

メニュー操作部の Trigger ボタンをクリックすると、トリガー操作部が表示されます。

**画像操作部（トリガー操作部）**




## FTP サーバーに静止画像をファイル転送する

［FTP send］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、FTP client 設定ページで設定した FTP サーバーに静止画像がファイル転送されます。
ファイル転送を行うには、あらかじめ、FTP client 設定ページで［Use FTP client function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「FTP サーバーへ画像を送信する － FTP client 設定ページ」（33 ページ）をご覧ください。

## E メールに静止画像を添付して送信する

［Mail send］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、SMTP 設定ページで設定した E メールアドレスに静止画像を添付した E メールが送信されます。
E メールを送信するには、あらかじめ、SMTP 設定ページで [Use SMTP function] を選択し、動作モードを［Manual］に設定しておく必要があります。
詳しくは、「E メールに画像を添付して送る － SMTP 設定ページ」（37 ページ）をご覧ください。

## ATA メモリーカードまたはカメラの内部メモリーに静止画像を記録する

［Memory save］を選択し、 をクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、Image memory 設定ページで設定したメモリーに静止画像が記録されます。
メモリーに静止画像を記録するには、あらかじめ、Image memory 設定ページで［Use image memory function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「メモリーに画像を記録する－ Image memory 設定ページ」（41 ページ）をご覧ください。

## アラーム出力を制御する

［Alarm out 1］または［Alarm out 2］を選択し、 をクリックすると、カメラ本体の I/O ポートのアラーム出力 1、アラーム出力 2 をマニュアルで制御できます。クリックするたびに、リレーの短絡と開放が切り換わります。
アラーム出力を制御するには、あらかじめ Alarm out 1 設定ページまたは Alarm out 2 設定ページで［Use alarm out 1 ( または 2) function］を選択し、動作モードを [Manual] に設定しておく必要があります。
詳しくは、「アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ」（39 ページ）をご覧ください。

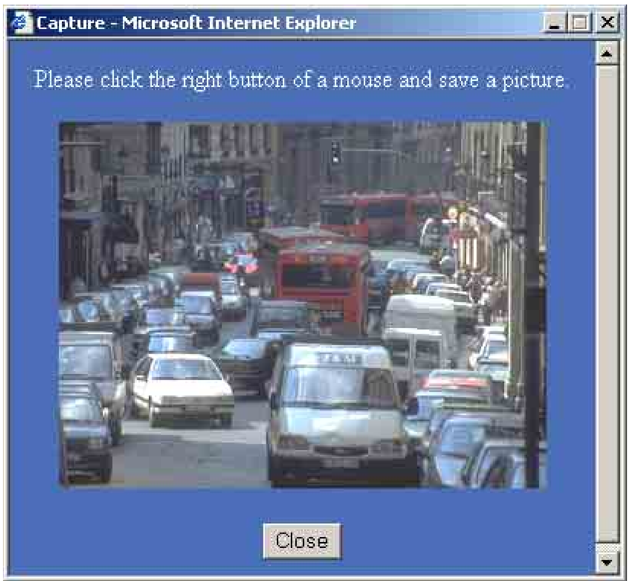
I/O ポートのアラーム出力を周辺デバイスへ接続する方法は、付属の設置説明書をご覧ください。

## Day/Night モードを制御する

［Day/Night］を選択し、 をクリックすると、Day/Night モードの切り換えをマニュアルで制御できます。
クリックするたびに、Day モードと Night モードが切り換わります。
Day/Night モードの切り換えを制御するには、あらかじめ Camera 設定ページで Day/Night モードを［Manual］に設定しておく必要があります。
詳しくは、「カメラを設定する － Camera 設定ページ」（23 ページ）をご覧ください。

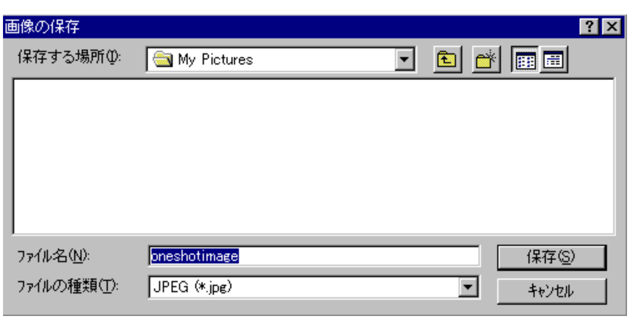
# モニター画像をキャプチャーする

メニュー操作部の Capture ボタンをクリックすると、その瞬間の静止画像がキャプチャーされ、画像表示部に静止画像が表示されます。




## キャプチャーした画像を保存するには

マウスを右クリックし、表示されるメニューから［名前を付けて画像を保存］を選択すると、「画像の保存」ダイアログが表示されます。ダイアログ上でファイル名を設定し、保存先を指定してから保存します。JPEG 形式で保存されます。

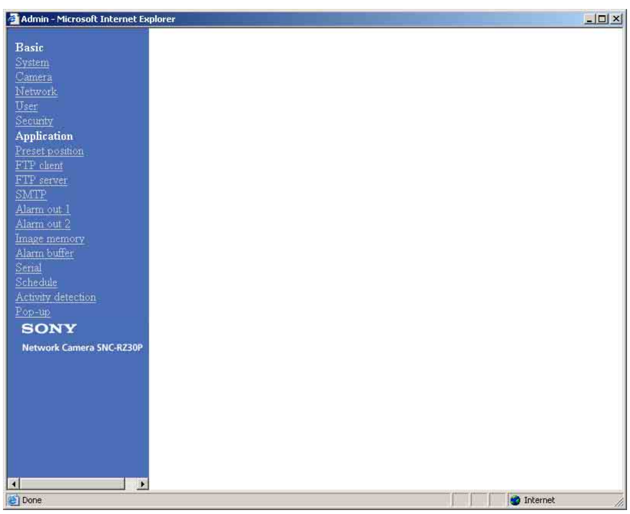


## カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。
カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」(6 ページ)をご覧ください。

# 管理者設定メニューページの構成

アクセス権「Level4」の管理者が、管理者用ウェルカムページの［Setting］を選択したり、メインビューアーページのメニュー操作部の Setting ボタンをクリックすると、管理者用の設定メニューページが表示されます。




管理者設定メニューには、本機の基本設定を行う Basic メニューと、それぞれのユーザーの使用状態に合わせてアプリケーションを設定する Application メニューがあります。
各メニュー名をクリックすると、その設定ページが表示されます。

## Basic メニュー

### System

System 設定ページを表示します。(「システム設定をする − System 設定ページ」17 ページ)

### Camera

Camera 設定ページを表示します。(「カメラを設定する − Camera 設定ページ」20 ページ)

### Network

Network (Ethernet) 設定ページを表示します。(「ネットワークを設定する − Network 設定ページ」24 ページ)

### User

User 設定ページを表示します。(「ユーザー設定をする − User 設定ページ」28 ページ)

### Security

Security 設定ページを表示します。(「セキュリティ設定をする − Security 設定ページ」29 ページ)

## Application メニュー

### Preset position

Preset position 設定ページを表示します。(「カメラの位置や動作を記憶する − Preset position 設定ページ」30 ページ)

### FTP client

FTP client 設定ページを表示します。(「FTP サーバーへ画像を送信する − FTP client 設定ページ」33 ページ)

### FTP server

FTP server 設定ページを表示します。(「カメラから画像をダウンロードする − FTP server 設定ページ」36 ページ)

### SMTP

SMTP 設定ページを表示します。(「E メールに画像を添付して送る − SMTP 設定ページ」37 ページ)

### Alarm out 1

Alarm out 1 設定ページを表示します。(「アラーム出力 1、2 を設定する − Alarm out 1、2 設定ページ」39 ページ)

### Alarm out 2

Alarm out 2 設定ページを表示します。(「アラーム出力 1、2 を設定する − Alarm out 1、2 設定ページ」39 ページ)

### Image memory

Image memory 設定ページを表示します。(「メモリーに画像を記録する − Image memory 設定ページ」41 ページ)

### Alarm buffer

Alarm buffer 設定ページを表示します。(「アラームバッファを設定する − Alarm buffer 設定ページ」44 ページ)

### Serial

Serial 設定ページを表示します。（「シリアル接続機器とデータの送受信を行う － Serial 設定ページ」45 ページ）

### Schedule

Schedule 設定ページを表示します。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

### Activity detection

Activity detection 設定ページを表示します。（「動体検知機能を設定する－ Activity detection 設定ページ」46 ページ）

### Pop-up

Pop up 設定ページを表示します。（「ポップアップ画面を表示する － Pop-up 設定ページ」47 ページ）

## 各設定ページの共通ボタン

設定ページには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。ボタンの機能は、どの設定ページでも同じです。

OK　Apply

設定した内容を有効にするときクリックします。

Cancel

設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

Back

その設定ページの先頭ページに戻すときクリックします。

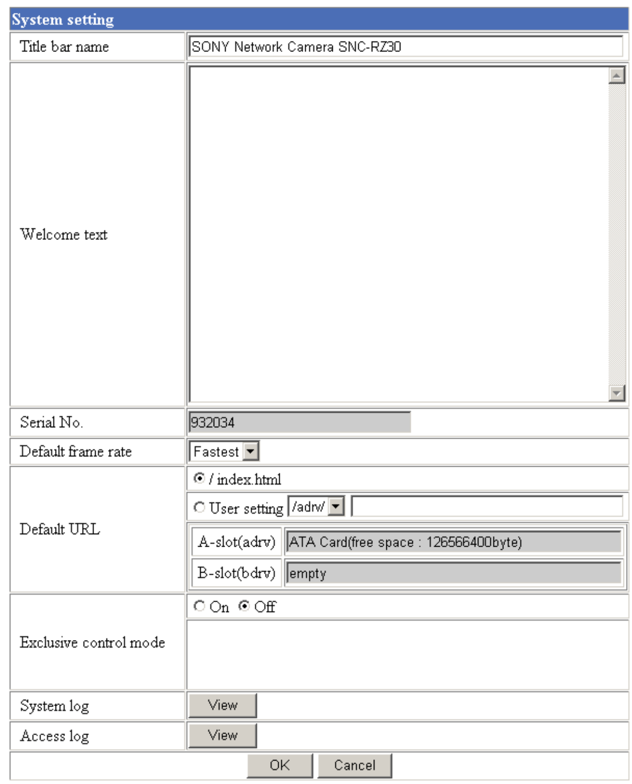
## 設定ページ全般についてのご注意

- 設定ページで、Welcome text や e-mail address など、コンピューターから入力する文字に、全角文字や半角カタカナは使用できません。
- 設定ページで設定を変更した場合は、10 秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
- Area setting 設定ページや動体検知機能（Activity detection）設定ページを表示すると、メインビューアーページに表示される画像サイズがしばらくの間変わる場合がありますが、異常ではありません。
- メインビューアーで閲覧中にカメラの設定を変更しても反映されない項目があります。変更した設定内容を既に開いているメインビューアーに反映させるには、Web ブラウザの［更新］をクリックしてください。

# システム設定をする － System 設定ページ

管理者設定メニューの［System］をクリックすると、System 設定ページが表示されます。
このページでは本機の基本設定を行います。

## System setting 部




### Title bar name

本機のタイトルバー名を入力します。
半角で 32 文字まで入力可能です。

### Welcome text

本機のウエルカムページに表示する文を HTML 形式で入力します。
半角で 1024 文字以内（改行は 2 文字換算）で入力可能です。
改行は <BR> タグで入力してください。

### Serial No.

本機のシリアル番号が表示されます。

## Default frame rate

ホームページへログインし、メインビューアーページを表示したときのフレームレートの初期値をリストボックスから選択します。
リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。
選択できるフレームレート：1、2、3、4、5、6、8、10、15、20、25、Fastest
数字は"FPS"（1秒間に配信されるフレーム数）を示します。
［Fastest］を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度（最大 30 FPS）で配信されます。

**ご注意**

変更した設定内容を既に開いているメインビューアーページに反映させるには、ブラウザの［更新］をクリックしてください。

## Default URL

ブラウザのアドレス欄に本機の IP アドレスを入力したときに表示されるページを選択します。

#### 本機に内蔵のホームページを使用するとき

［/index.html］を選択します。

#### 固有のホームページを使用するとき

本機の CGI コマンドを使って作成したホームページの HTML ファイルを推奨 ATA メモリーカードに書き込み、Default URL の設定を以下のように変更することにより、固有のホームページを使用することができます。
動作確認済みのカードについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

1. ［User setting］を選択する。
2. 独自に作成したホームページの HTML ファイルが入った推奨 ATA メモリーカードをカメラの PC カードスロットに入れる。
   レンズ側が A スロット、底板側が B スロットです。
3. A スロットに入れたときは［/adrv/］、B スロットに入れたときは［/bdrv/］をリストボックスから選択する。
4. テキストボックスに表示するページのパスを入力する（半角英数字 64 文字以下）。

#### A-slot (adrv)/B-slot (bdrv)

PC カードスロットに入れた PC カードの種類と空き容量を表示します。レンズ側の PC カードスロットが A-slot、底板側が B-slot です。

## Exclusive control mode

カメラのパン、チルトなどを操作する権限を制御します。
[Off] を選択すると、複数のユーザーが同時にパン、チルト操作を行うことができます。この場合、後からの操作が優先されます。
[On] を選択すると、1 ユーザーだけがパン、チルト操作を行うことができます。1 ユーザーが操作できる時間は、Operation time で設定します。あるユーザーが操作中に他のユーザーが操作しようとすると、Operation time、Maximum wait number の設定により、コントロール権限が制御されます。

#### Operation time

1ユーザーに与える操作権限時間を設定します。設定範囲は 10 ～ 600 sec です。
Exclusive control mode が［On］のとき、有効になります。

#### Maximum wait number

あるユーザーが操作中に複数の他のユーザーから操作要求が発生した場合、操作権限待ちを行う最大ユーザー数を設定します。設定範囲は 0 ～ 20 です。
Exclusive control mode が［On］のとき、有効になります。

**ご注意**

- Exclusive control モードをお使いのときは、あらかじめ本カメラおよび接続するコンピューターの日付と時刻が正しく設定されている必要があります。
- Exclusive control mode 機能をお使いのときは、ブラウザの Cookie 設定を「有効」にしてお使いください。Cookie 設定を「無効」にすると、Exclusive control mode 機能は使用できません。
- Exclusive control mode 機能の設定を変更したときは、変更内容を反映させるために、ブラウザの［更新］をクリックしてください。

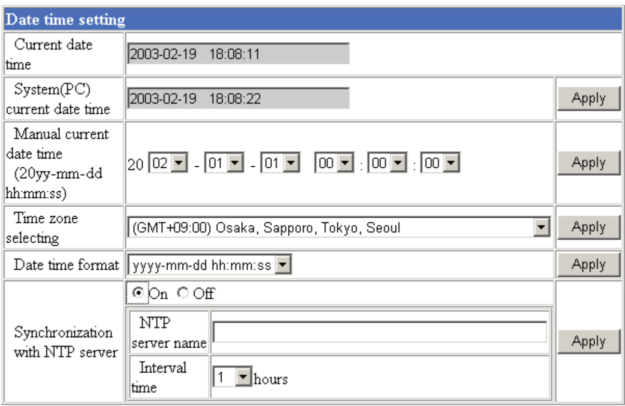
## System log

[View] をクリックすると、Log file events ページが表示されます。Log file events ページには、ソフトウェアのバージョンやトラブルが起きたときに役立つイベント情報が表示されます。

## Access log

[View] をクリックすると Access log ページが表示されます。Access log ページには、カメラのアクセス履歴が表示されます。

# Date time setting 部




## Current date time

本カメラに設定されている日付／時刻を表示します。カメラの日付／時刻は、以下の 2 とおりの方法で設定できます。

**ご注意**

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

## System (PC) current date time

使用しているコンピューターの日付／時刻がテキストボックスに表示されます。カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに使います。
[Apply] をクリックすると Current date time がこの時刻に変更されます。

## Manual current date time

カメラの日付／時刻を手動設定するときに使います。
各ボックスのドロップダウンリストで、年（下 2 桁)、月、日、時、分、秒を選択します。[Apply] をクリックすると Current date time がこの時刻に変更されます。

## Time zone selecting

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。E メールを送信するとき、この設定を使って受信側の日付／時刻に合うように調整されます。
リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。[Apply] をクリックすると Current date time が選択に合わせて調整、変更されます。
日本の場合は、[(GMT+09:00) Osaka、Sapporo、Tokyo、Seoul] を選択します。

**ご注意**

- Time zone selecting で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。
- ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

## Date time format

モニター画面上に表示する日付／時刻の書式をリストボックスから選択します。
[yyyy-mm-dd hh:mm:ss]（年―月―日 時：分：秒）、[mm-dd-yyyy hh:mm:ss]（月―日―年 時：分：秒）、[dd-mm-yyyy hh:mm:ss]（日―月―年 時：分：秒）から選択できます。
[Apply] をクリックすると、変更した設定内容がカメラに転送されます。

## Synchronization with NTP server

カメラの時刻を NTP (Network Time Protocol) サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる機能です。
時刻同期機能を使うときは［On］を、時刻同期機能を使わないときは［Off］を選択します。

### NTP server name

NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。半角文字で 64 文字以内で入力します。
Synchronization with NTP server が［On］のとき、有効になります。

### Interval time

NTP サーバーに現在時刻を問い合わせし、カメラとの時刻調整を行う間隔を設定します。1 ～ 24 時間の間で設定できます。実際にはこの間隔は目安であり、多少の差異があります。
Synchronization with NTP server が［On］のとき、有効になります。

**ご注意**

この機能をご使用になった場合、カメラと NTP サーバー間のネットワークの回線状況などにより、設定時刻に誤差が生じる場合があります。

## Initialization 部

| Initialization | | |
|---|---|---|
| Backup setting | Save | |
| Restore setting | 参照... | Apply |
| Reboot | Reboot | |
| Factory default | Factory default | |

### Backup setting

カメラの設定情報をファイルに保存するときに使います。[Save] をクリックし、ブラウザの指示に従ってフォルダを指定して本カメラの設定情報を保存することができます。

保存ファイル名称の初期値は「snc-rz30.cfg」です。

### Restore setting

保存されているカメラの設定情報を呼び出すときに使います。

[ 参照 ] をクリックして、保存されているカメラ設定情報を選択します。[Apply] をクリックすると、選択されたファイルに従ってカメラが設定され、再起動します。

**ご注意**

- Network 設定ページ の Wired LAN setting 部の IP address（24 ページ）、および Wireless LAN setting 部 の IP address （25 ページ）は設定されません。
- Preset position 設定ページの Preset position name（30 ページ）は設定されますが、Preset position name に対応した位置情報は設定されません。

### Reboot

強制的にカメラを再起動するときに使います。

［Reboot］をクリックすると、「The SNC-RZ30 will be rebooted. Are you sure?」と表示されます。［OK］をクリックするとカメラが再起動します。

### Factory default

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。

［Factory default］をクリックすると、「All configuration information will be initialized as factory setting.　Are you sure?」と表示されます。

［OK］をクリックすると出荷時の設定に戻ります。

# カメラを設定する – Camera 設定ページ

管理者設定メニューの［Camera］をクリックすると、Camera 設定ページが表示されます。

このページではカメラ機能の設定を行うことができます。

**ご注意**

変更した設定をカメラに反映するには、設定値を変更後、その項目の［Apply］ボタンをクリックしてください。

## Camera setting 部

| Camera setting | | |
|---|---|---|
| Image size | Maximum alarm images change by selecting the list box.<br>320x240 | Apply |
| Image quality | Maximum alarm images change by selecting the list box.<br>Level 5 | Apply |
| Image flip | ○ On ◉ Off | Apply |
| Image | ◉ Color ○ Monochrome | Apply |
| Area setting | ○ On ◉ Off<br>Area setting | Apply |
| Zoom mode | Full | Apply |
| Focus mode | Auto | Apply |
| White balance mode | Manual | Apply |
| | R Gain 212 (0 to 255) | Apply |
| | B Gain 179 (0 to 255) | Apply |
| Exposure mode | Manual | Apply |
| | Shutter 1/50 sec | Apply |
| | Iris F 2.4 | Apply |
| | Gain 0 dB | Apply |
| Exposure compensation | ◉ On ○ Off | Apply |
| | 0 EV | Apply |
| Saturation | 0 (-3 to 3) | Apply |
| Sharpness | 6 (1 to 16) | Apply |
| Contrast | 0 (-3 to 3) | Apply |
| Stabilizer | ○ On ◉ Off | Apply |
| Camera reset | Apply | |

### Image size

コンピューターに送るカメラ画像のサイズを選択します。

[736 × 480（Auto）]、[736 × 480（Frame)]、[736 × 480（Field)]、[640 × 480（Auto)]、[640 × 480（Frame)]、[640 × 480（Field)]、[320 × 240]、[160 × 120］から選択できます。

[Frame］は静止画像向き、[Field］は動画像向きです。

[Auto］を選択すると、被写体が静止画像の場合は

Frame 画像、動画像の場合は Field 画像に自動的に切り換えます。

## Image quality

画質を選択します。[Level 1] ～ [Level 10] が選択できます。
レベルが高いほど画質が良くなりますが、１画像のデータ量が大きくなりますので、フレームレートは小さくなります。

**補足**

１画素 24 ビット（RGB 各８ビット）の画像データ量を基準にした場合のレベルとデータ量、圧縮率の関係は以下のようになります。(640 × 480 画像の場合)

| Level | データ量 | 圧縮率 |
|---|---|---|
| 1 | 約 15 KB | 約 1/60 |
| 2 | 約 18 KB | 約 1/50 |
| 3 | 約 22.5 KB | 約 1/40 |
| 4 | 約 25.7 KB | 約 1/35 |
| 5 | 約 30 KB | 約 1/30 |
| 6 | 約 36 KB | 約 1/25 |
| 7 | 約 45 KB | 約 1/20 |
| 8 | 約 60 KB | 約 1/15 |
| 9 | 約 90 KB | 約 1/10 |
| 10 | 約 180 KB | 約 1/5 |

## Image flip

画像の上下を反転してコンピューターに表示できます。
カメラをデスクトップなどに設置するときは [On] を選択すると、画像が正視できます。

**ご注意**

[On] を選択すると、カメラ後面の映像出力端子（BNC 型）から出力されるコンポジット信号も上下反転した映像となります。

## Image

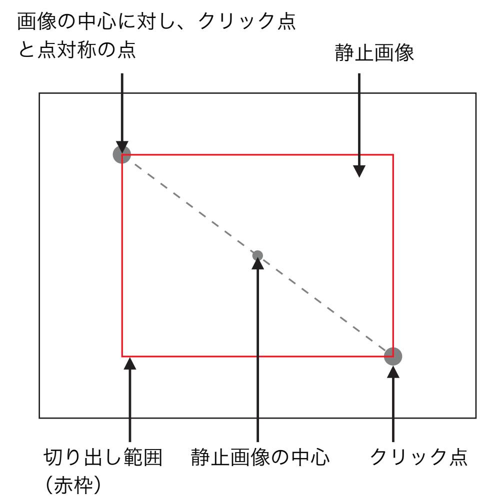
[Color]（カラー画像）と [Monochrome]（白黒画像）を選択します。

## Area setting

画像サイズが [736 × 480] または [640 × 480] のとき、必要な部分のみの画像を切り出してコンピューターに表示できます。必要な部分のみを表示させることにより、配信のデータ量を小さくし、回線の負担を軽減し、フレームレートを上げることができます。
画像の切り出しを行うときは [On]、切り出しを行わないときは [Off] を選択します。

**画像の切り出しかた**

1. Image Sizeを[736×480]または[640×480]に設定する。
2. [On] を選択し、[Apply] をクリックする。
3. [Area setting] をクリックする。
静止画像が表示されます。
4. 静止画像上をクリックし、切り出し範囲を設定する。
クリックしたときに表示される赤い枠で囲まれた部分が切り出し範囲となります。
切り出し範囲は次の図のように決定されます。




切り出し範囲を変更するには、画像上の別の点をクリックします。

5. 画面下部の [OK] をクリックする。
切り出した画像がメインビューアーページに表示されます。
6. 画像を閉じるには、画面右上の ☒ ボタンをクリックする。

## Zoom mode

ズームモードを選択します。
[Full] を選択すると、光学 25 倍、電子 12 倍、トータルで 300 倍までのズームが可能です。光学ズームが動作した後、電子ズームが動作します。
[Optical only] を選択すると、光学 25 倍のズームが可能です。この場合、メインビューアーページのカメラ操作部の DZOOMx2 ボタンをクリックすると電子２倍ズームが動作します。DZOOMx1 ボタンをクリックすると電子ズームは解除されます。(「カメラのズームを操作する」12 ページ)

カメラの設定

## Focus mode

フォーカスモードを選択します。
［Auto］を選択すると、自動でフォーカス調整されます。
［Manual］を選択すると、メインビューアーページのNEAR、FAR ボタンを使ってマニュアルでフォーカス調整できます。また、ONE PUSH AF ボタンをクリックして、ワンプッシュでフォーカスを合わせることもできます。(「カメラのフォーカスを合わせる」12 ページ)

## White balance mode

ホワイトバランスモードを選択します。
［Auto］、［Indoor］、［Outdoor］、［One push WB］、［ATW］、［Manual］から選択できます。
［One push WB］を選択すると、ONE PUSH TRIGGER ボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、ホワイトバランスが調整されます。
［Manual］を選択すると、[R Gain]、[B Gain] が表示されます。それぞれ 0 〜 255 の値を設定できます。

## Exposure mode

露出を選択します。
［Full auto］、［Shutter priority］、［Iris priority］、［Manual］から選択できます。
選択に応じ、下部に必要な調整項目が表示されます。

**[Full auto]：**電子シャッター、絞り、感度をすべて使用して自動で露出を調整します。[Back light compensation] で、逆光補正の On/Off を設定できます。

**[Shutter priority]：**絞りと感度を使用して自動で露出を調整します。
電子シャッターのシャッタースピード値は、[Shutter] リストボックスから選択します。

**[Iris priority]：**電子シャッターと感度を使用して自動で露出を調整します。
絞りは、[Iris] リストボックスから F 値を選択します。

**[Manual]：**電子シャッター、絞り、感度をそれぞれのリストボックスから選択します。

### Auto slow shutter

スローシャッター機能を使うときは [On]、使わないときは [Off] を選択します。
[On] を選択するとシーンの明るさに合わせて、長時間露光も含めた自動露出調整を行います。

### Back light compensation

逆光補正をするときは [On]、しないときは [Off] を選択します。

### Shutter

電子シャッターのシャッタースピードを選択します。以下のシャッタースピードを選択できます。
1/10000, 1/6000, 1/4000, 1/3000, 1/2000, 1/1000, 1/725, 1/500, 1/350, 1/250, 1/180, 1/125, 1/100, 1/90, 1/60, 1/30, 1/15, 1/8, 1/4, 1/2, 1（単位は秒）

### Iris

絞りを選択します。以下の F 値を選択できます。
F1.6, F2, F2.4, F2.8, F3.4, F4.0, F4.8, F5.6, F6.8, F8.0, F9.6, F11, F14, F16, F19, F22, F28, Close

### Gain

感度を選択します。以下の dB 値を選択できます。
-3 dB, 0 dB, 2 dB, 4 dB, 6 dB, 8 dB, 10 dB, 12 dB, 14 dB, 16 dB, 18 dB, 20 dB, 22 dB, 24 dB, 26 dB, 28dB

**ご注意**

［Shutter priority］、［Manual］モード時、シャッタースピードを［1 sec］または［1/2 sec］に設定している場合、Focus mode、White balance mode は［Manual］に設定してください。

## Exposure compensation

Exposure mode が［Full auto］、［Shutter priority］、［Iris priority］のとき、露出補正を選択します。
Exposure compensation の［On］を選択し、リストボックスから EV 値を選択します。
選択できる EV 値：＋ 1.75 EV, ＋ 1.5 EV, ＋ 1.25 EV, ＋ 1 EV, ＋ 0.75 EV, ＋ 0.5 EV, ＋ 0.25 EV, 0 EV, － 0.25 EV, － 0.5 EV, － 0.75 EV, － 1 EV, － 1.25 EV, － 1.5 EV, － 1.75 EV

## Saturation

彩度を［－ 3］〜［3］の 7 段階から選択します。
［3］を選択すると最高彩度の画像になります。

**ご注意**

彩度はコンピューター画像にのみ反映されます。(Video 出力には反映されません)

## Sharpness

鮮鋭度を［1］〜［16］の 16 段階から選択できます。
［16］を選択すると最高鮮鋭度の画像になります。

## Contrast

コントラストを［－3］～［3］の7段階から選択します。
［3］を選択すると最高コントラストの画像になります。

**ご注意**

コントラストはコンピューター画像にのみ反映されます。(Video 出力には反映されません)

## Stabilizer

手ブレ補正を設定します。
［On］に設定すると、振動のある場所に設置したとき揺れの少ない画像が表示されます。
通常は［Off］を推奨します。

**ご注意**

- Stabilizer を［On］にしてパン、チルトを動作させた場合、操作停止後に画像が安定するまで約5秒かかります。
- 手ブレ補正は、人間の手ブレのために開発された技術です。振動によっては手ブレ補正が効かない場合があります。
- Stabilizer の［On］、［Off］の設定により、画角が多少異なります。

## Camera reset

[Apply] をクリックすると、「Camera reset OK?」と表示されます。ダイアログの [OK] をクリックすると、Camera 設定ページのカメラ設定が出荷時の設定に戻ります。

# Day/Night setting 部

| Day/Night setting | |
|---|---|
| Day/Night mode | ○ Disable ○ Auto ◉ Manual ○ Timer |
| Day/Night | ○ On ◉ Off |
| | OK Cancel |

## Day/Night mode

Day/Night 切り換えモード（赤外線カットフィルターの動作モード）を設定します。
［Disable］、［Auto］、［Manual］、［Timer］モードが選択できます。
モード選択後に [OK] ボタンをクリックすると、選択したモードに切り換わります。

**［Disable］**：常に Day モードです。

**［Auto］**：通常は Day モード、暗いところでは Night モードに自動的に切り換わります。

**ご注意**

Camera setting 部の Exposure mode で［Shutter priority］または［Iris priority］、［Manual］が選択されているときは Night モードに切り換わりません。

**［Manual］**：Day/Night モードの切り換えをマニュアルで制御します。
［Manual］を選択すると、Day/Night On/Off が表示されます。［On］を選択すると、Night モードになります。［Off］を選択すると、Day モードになります。
また、トリガー操作部（14 ページ）からも Day/Night モードの切り換えができます。

**［Timer］**：Day/Night モードをタイマーによって切り換えます。
［Timer］を選択すると、下部に Schedule No. が表示され、スケジュールを選択できます。通常は Day モード、選択したスケジュールのスタート時刻になると Night モードに切り換わり、エンド時刻になると Day モードに戻ります。

## Schedule No.

Day/Night mode で［Timer］を選択したとき、Schedule No. 1 ～ 6 のチェックボックスをクリックして Day/Night モードを切り換えるスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、［Schedule check］をクリックします。(「スケジュールを設定する－Schedule 設定ページ」46 ページ)

## OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# Camera control mode setting 部

8方向矢印ボタンを使ったパン、チルト操作（11 ページ）や TELE/WIDE ボタンを使ったズーム操作（12 ページ）、NEAR/FAR ボタンを使ったマニュアルフォーカス操作（12 ページ）の動作モードを設定します。

| Camera control mode setting | | |
|---|---|---|
| Mode | ○ Normal ◉ Step | |
| Level | Pan/Tilt | 1 |
| | Zoom | 1 |
| | Focus | 1 |
| | OK Cancel | |

### Mode

マウスによる動作を切り換えます。

**[Normal]**：マウスをクリックするとカメラのパン、チルト、ズーム動作やフォーカス調整が始まり、クリックしている間動作します。指を離すとカメラの動作や調整が停止します。

**[Step]**：マウスをクリックするたびに、Level の設定に応じてカメラが移動（パン、チルト、ズーム）したり、フォーカス調整が行われます。約 1 秒以上クリックし続けると一時的に [Normal] モードの動作になります。指を離すとカメラの動作や調整が停止し、[Step] モードに戻ります。

### Level

Mode で [Step] を選択したとき、マウスを 1 回クリックしたときのカメラの移動量や調整量を選択します。

**[Pan/Tilt]**：パン、チルト用の 8 方向矢印ボタンをクリックしたときのカメラの移動量を、[1] ～ [10] の 10 段階から選択します。[10] を選択すると、移動量が最大になります。

**[Zoom]**：ズーム操作用の TELE 、WIDE ボタンをクリックしたときのカメラの移動量を、[1] ～ [10] の 10 段階から選択します。[10] を選択すると、移動量が最大になります。

**[Focus]**：マニュアルフォーカス操作用の FAR、NEAR ボタンをクリックしたときの調整量を、[1] ～ [10] の 10 段階から選択します。[10] を選択すると、調整量が最大になります。

**ご注意**

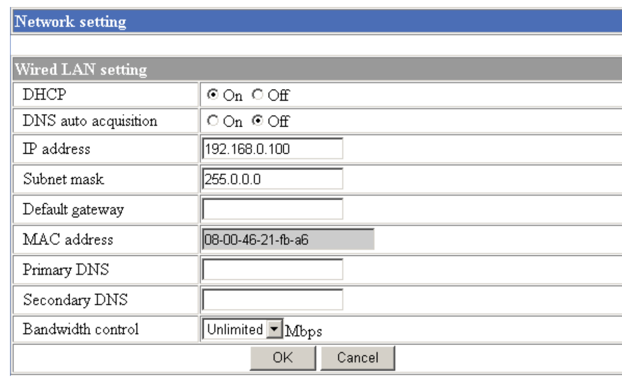
Mode や Level の設定を変更したときは、設定変更を画像操作部に反映させるため、メニュー操作部の Control ボタンをクリックしてください。

# ネットワークを設定する －Network 設定ページ

管理者設定メニューの［Network］をクリックすると、Network 設定ページが表示されます。
このページでは本機とコンピューターをネットワーク接続するためにネットワーク設定を行います。

## Wired LAN setting 部

本機をイーサネットで接続するための設定を行います。




### DHCP

［On］にすると IP アドレスが自動的に割り当てられます。固定 IP アドレスを設定する場合は［Off］にします。

**ご注意**

DHCP を［On］にする場合は、ネットワーク上に DHCP サーバーが必要です。

### DNS auto acquisition

DHCP を [On] にしたとき、DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得するかどうかを設定します。
自動的に取得するときは [On] にします。

### IP address

カメラの IP アドレスを入力します。

### Subnet mask

サブネットマスク値を入力します。

### Default gateway

デフォルトゲートウエイを入力します。

### MAC address

カメラの MAC アドレスを表示します。

## Primary DNS

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

## Secondary DNS

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

## Bandwidth control

本カメラのイーサネットインターフェースが送受信するデータの帯域を制限します。
選択できる帯域は以下のとおりです。帯域を制限しないときは [Unlimited] を選択します。
選択可能な帯域：Unlimited, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 2.0, 3.0, 4.0, 5.0, 6.0, 7.0, 8.0（単位は Mbps）

**ご注意**

・ 帯域を制限すると、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下します。
・ ネットワーク環境により、実際の帯域は選択された帯域より増減する場合があります。

## OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# Wireless LAN setting 部

本機の PC カードスロットに指定の無線 LAN カードを挿入して、ワイヤレスネットワークに接続するための設定を行います。
設定の際には、無線 LAN カードの取扱説明書やインストレーションガイドなども合わせてお読みください。

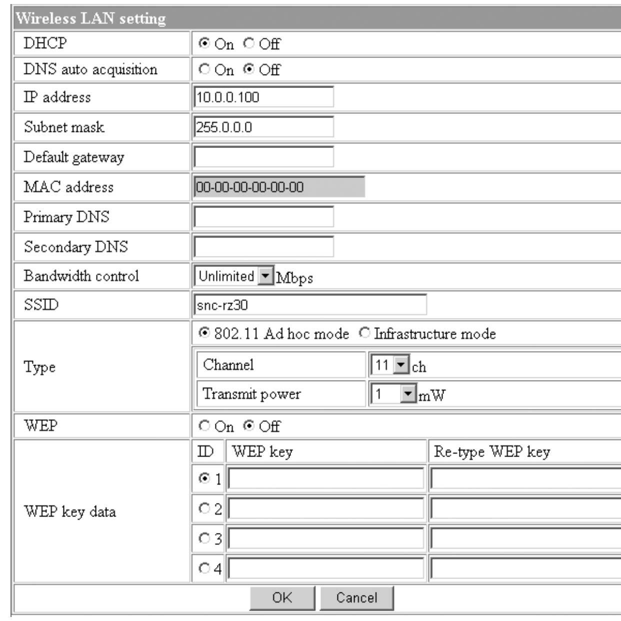
**ご注意**

本機のワイヤレス機能をお使いの場合には、Wireless LAN setting 部で設定するネットワークアドレス（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイによって決まります）を優先接続（Wired LAN setting 部の設定）と異なるように設定してください。

## 動作確認済み無線 LAN アダプターカード

Cisco Aironet 350 Series Client Adapter: AIR-PCM352

詳しくは、お買い上げ店またはお近くのソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。




## DHCP

[On] に固定すると IP アドレスが自動的に割り当てられます。固定 IP アドレスを設定する場合は [Off] にします。

**ご注意**

DHCP を [On] にする場合は、ネットワーク上に DHCP サーバーが必要です。

## DNS auto acquisition

DHCP を [On] にしたとき、DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得するかどうかを設定します。自動的に取得するときは [On] にします。

## IP address

カメラの IP アドレスを入力します。

## Subnet mask

サブネットマスク値を入力します。

## Default gateway

デフォルトゲートウェイを入力します。

## MAC address

PC カードスロットに挿入されている無線 LAN カードの MAC アドレスを表示します。無線 LAN カードが挿入されていない場合には「00-00-00-00-00-00」と表示されます。

## Primary DNS

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

### Secondary DNS

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

### Bandwidth control

本カメラのワイヤレスインターフェースが送受信するデータの帯域を制限します。
選択できる帯域は以下のとおりです。帯域を制限しないときは [Unlimited] を選択します。
選択可能な帯域 : Unlimited, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0, 2.0, 3.0（単位は Mbps）

### SSID

アクセスする特定のワイヤレスネットワークを識別するサービスセット ID です。最大 32 文字の ASCII テキスト文字（大文字、小文字の区別有り）で入力できます。
セキュリティを確保するため、工場出荷時の設定値から変更してご使用ください。

### Type

ネットワークの接続タイプ [802.11 Ad hoc mode] または [Infrastructure mode] を指定します。[802.11 Ad hoc mode] を選択した場合は、Channel（無線転送チャンネル）と Transmit power（最大電力レベル）を指定してください。

**ご注意**

Channel および Transmit power は、規制地域ごとに許可されている値に設定してください。詳しくは、無線 LAN カードの取扱説明書やインストレーションガイドなどをご覧ください。

### WEP

WEP（Wired Equivalent Privacy）暗号化キーを使用するときは［On］を、使用しないときは［Off］を選択します。[Off] に設定した場合は、［WEP key data］で設定した値は無効となります。

### WEP key data

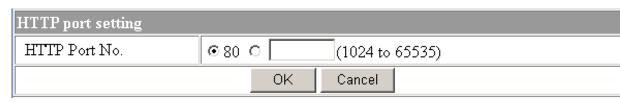
WEP キーを指定します。最大 4 つまで設定できます。
WEP キーの長さは、40 または、104 ビット長です。
104 ビットの WEP キーでは、40 ビットのキーよりもセキュリティレベルが高くなります。WEP キー形式は、16 進文字（0-9、A-F）または ASCII テキスト文字のどちらでも入力可能です。
無線 LAN カードの WEP キーは、[Infrastructure mode] の場合は、アクセスポイントと同じキーに、[802.11 Ad hoc mode] の場合は、通信先のクライアントと同じキーに設定する必要があります。

**ご注意**

- 無線 LAN カードを抜くときは必ず本機の電源を切ってから行ってください。
- Wired LAN setting, Wireless LAN setting のうち一方のネットワーク設定が変更になると、イーサネットとワイヤレスの双方のインターフェースの接続がいったん切断され、初期化動作を行います。
- ワイヤレス LAN カードをお使いの場合は、イーサネット経由で送受信するデータのスループットが低下する場合があります。

## HTTP port setting 部

本カメラの HTTP サーバーポート番号を設定します。




### HTTP port No.

通常は [80] を選択します。[80] 以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

**ご注意**

Network 設定ページやセットアッププログラムで HTTP port No. を [80] 以外のポート番号に設定したときは、ブラウザのアドレス欄に以下のように入力してカメラにアクセスし直してください。

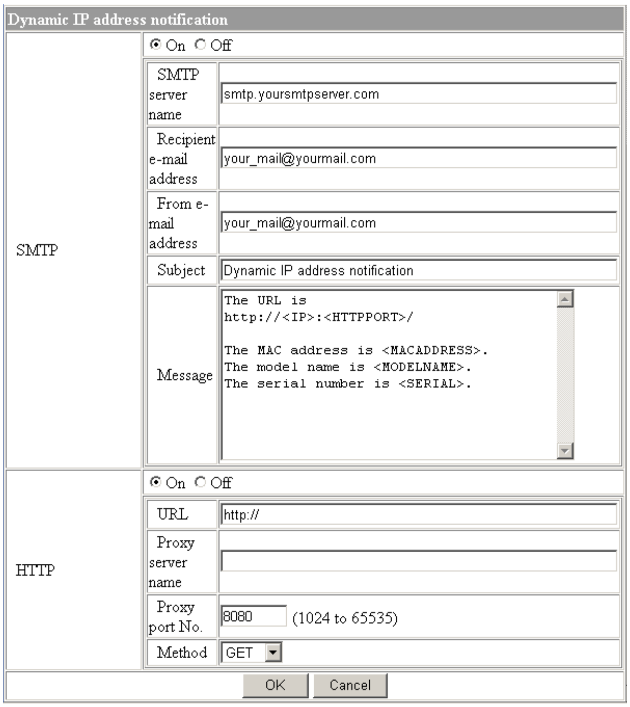
例：ポート番号を 8000 番に設定した場合




## IP アドレス通知を行うー Dynamic IP address notification 部

ネットワーク設定（Wired LAN setting や Wireless LAN setting）で DHCP を [On] にした場合に SMTP や

HTTP などのプロトコルを使用してネットワーク設定の完了通知を送ることができます。




## SMTP

[On] を選択すると、DHCP 設定完了時にメールを送信することができます。

### SMTP server name

メール送信に使用する SMTP サーバー名または SMTP サーバーの IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

### Recipient e-mail address

送信先（受取人）のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。送信先は 1 つのみです。

### From e-mail address

メールの From フィールドに表示させるメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。メール返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

### Subject

メールの件名 / 題名を半角 64 文字以内で入力します。

### Message

メールの本文を半角 384 文字以内で入力します。後述の特殊タグを使用して、取得した IP アドレスなどの情報を記入することができます。

## HTTP

[On] を選択すると、DHCP 設定完了時に HTTP サーバーにコマンドを出力させることができます。コマンドを受け取る側の HTTP サーバーに残るアクセスログを参照したり、CGI による外部プログラムを起動させるなど、便利なシステムを構築することが可能となります。

### URL

HTTP コマンドを送信するための URL を指定します。URL は通常以下の形式で 256 文字以内で記述します。

http://ip_address[:port]/path?parameter

**ip_address：**接続すべきホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

**[:port]：**接続するポート番号を入力します。通常の HTTP サーバーは Well-known ポートである 80 番を使用しますが、この場合には省略することができます。

**Path：**コマンド名称を入力します。

**Parameter：**必要があればコマンドのパラメーターを入力します。パラメーターには後述の特殊タグを入力することができます。

### Proxy server name

プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信する際に設定します。プロキシサーバー名またはその IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

### Proxy port No.

プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信するためのポート番号を設定します。1024 ～ 65535 の値を設定することができます。

### Method

HTTP のメソッドを選択します。サポートされているメソッドは GET、POST の 2 種類です。

## 特殊タグについて

Dynamic IP address notification では、DHCP で取得した IP アドレスなどを通知できるようにするため特殊タグを使用することができます。これは SMTP の Messsage 中、HTTP の URL のパラメーター部分に入力することができます。特殊タグには以下の 5 種類があります。

### <IP>

このタグを使用すると DHCP 設定後の IP アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

### <HTTPPORT>

このタグを使用すると設定されている HTTP サーバーのポート番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

### <MACADDRESS>

このタグを使用すると DHCP で IP アドレスを取得したインターフェースの MAC アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

### <MODELNAME>

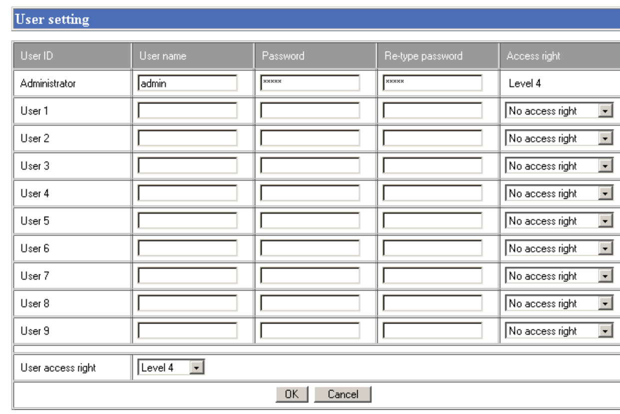
このタグを使用すると本機のモデル名称（SNC-RZ30N）を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

### <SERIAL>

このタグを使用することで本機のシリアル番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

# ユーザー設定をする － User 設定ページ

管理者設定メニューの［User］をクリックすると、User 設定ページが表示されます。
このページでは、管理者（Administrator）と最大９ユーザー（User 1 ～ User 9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのアクセス権が設定できます。




## Administrator, User 1 ～ 9

各列に [User name]、[Password]、[Re-type password]、[Access right] を設定します。

### User name

ユーザー名を 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

### Password

パスワードを 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

### Re-type password

パスワードの確認のために、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

**ご注意**

User name、Password、Re-type password の入力に間違いがあると、次のようなメッセージが表示されます。
[OK] をクリックし、正しく入力し直してください。



### Access right

リストボックスから各ユーザーのアクセス権を選択します。［Level 1］～［Level 4］が選択できます。各アクセス権の権限は以下のとおりです。

**[Level 1]**：モニター画像を見る権限（モニターに関する一部の操作を含みます）

**[Level 2]**：モニター画像を見る権限とカメラを操作する権限

**[Level 3]**：モニター画像を見る権限、カメラを操作する権限およびマニュアルでアプリケーションを操作する権限

**[Level 4]**：すべての権限（管理者）

**[No access right]**：一時的にアクセスを禁止させるときに使用します。

## User access right

ユーザー認証画面を表示してユーザー認証を行うアクセス権のレベルを設定します。

**[Level 1]**：メインビューアーページ（9 ページ）、カメラ操作部（11 ページ）、トリガー操作部（14 ページ）、管理者設定メニューページ（16 ページ）を表示するとき、ユーザー認証を行います。

**[Level 2]**：カメラ操作部、トリガー操作部、管理者設定メニューページを表示するとき、ユーザー認証を行います。メインビューアーページはユーザー認証を行わずに表示できます。

**[Level 3]**：トリガー操作部と管理者設定メニューページを表示するとき、ユーザー認証を行います。メインビューアーページとカメラ操作部はユーザー認証を行わずに表示できます。

**[Level 4]**：管理者設定メニューページを表示するときのみ、ユーザー認証を行います。その他のページはユーザー認証を行わずに表示できます。

## OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# セキュリティ設定をする － Security 設定ページ

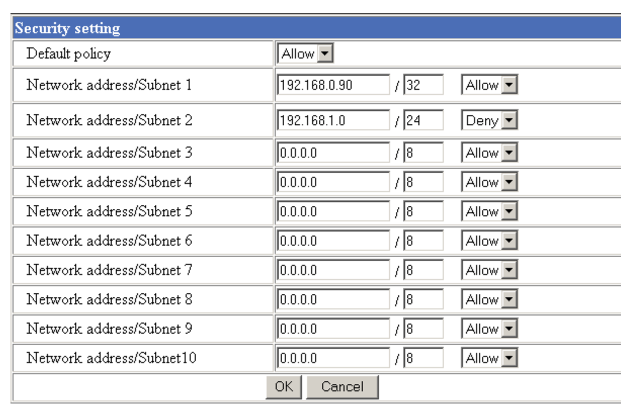
管理者設定メニューの［Security］をクリックすると、Security 設定ページが表示されます。
このページは、本機にアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。

## セキュリティ機能を ON/OFF する － Security usage setting ページ




セキュリティ機能を使用するときは、[Use security function] を選択し、[OK] をクリックします。Security setting ページが表示されます。
セキュリティ機能を使用しないときは、[Do not use security function] を選択し、[OK] をクリックします。

## セキュリティ機能の基本設定をする － Security setting ページ




### Default policy

下記の Network address/Subnet 1 ～ Network address/Subnet 10 に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を［Allow］（許可）にするか、［Deny］（拒否）にするかを設定します。

### Network address/Subnet 1 ～ Network address/Subnet 10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス / サブネットマスク値を入力します。

10 種類のネットワークアドレス / サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは 8 ～ 32 を半角で入力します。
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで［Allow］（許可）、または［Deny］（拒否）を設定できます。

**補足**

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば 255.255.255.0 のサブネットマスクに対しては 24 となります。
「192.168.0.0 ／ 24」、「Allow」と設定すれば 192.168.0.0 ～ 192.168.0.255 の IP アドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

**ご注意**

アクセス制限を［Deny］（拒否）に設定された IP アドレスのコンピューターからでも、表示される認証画面で［Level4］のアクセス権に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。

### OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# カメラの位置や動作を記憶する－ Preset position 設定ページ

管理者設定メニューの［Preset position］をクリックすると、Preset position 設定ページが表示されます。
このページでは、カメラのパン、チルト、ズーム位置（Preset position）を記憶させたり、ツアー（プログラム）動作の設定ができます。

## パン、チルト、ズーム位置を記憶させる－ Position preset 部

カメラのパン、チルト、ズーム位置（Preset position）を 16 種類記憶させることができます。




**ご注意**

プリセットポジションで記憶できる内容は、パン、チルト、ズーム位置のみです。
Focus mode、Exposure mode、White balance mode は［Auto］に設定して動作させてください。（「カメラを設定する － Camera 設定ページ」20 ページ）

### Preset No.

リストボックスからプリセット番号 1 ～ 16 を選択します。
[Preset call] をクリックすると、選択したプリセット番号のパン、チルト、ズーム位置にカメラが移動します。

### Preset position name

選択したプリセット番号に対するプリセットポジション名を半角 32 文字以下で入力します。

### Apply

カメラの位置をプリセット番号に記憶させるのに使います。
以下のようにして記憶させます。

**1** メインビューアーページの画像操作部で画像を確認しながら、記憶させたい位置にカメラを移動させる。

**2** 記憶させたい Preset No. を選択し、Preset position name を入力する。

**3** [Apply] ボタンをクリックする。
カメラ位置が記憶されます。

## Clear

現在選択しているプリセット番号の記憶内容を消去します。

## アラームとプリセットポジションを連動させる－ Position at alarm 部

本カメラは外部センサー入力１～３や動体検知機能（Activity detection）にプリセットポジションを連動させることができます。外部センサー入力や動体検知機能によりアラームが検出されると、カメラが対応するプリセットポジションに自動的に移動します。

| Position at alarm | | |
|---|---|---|
| Sensor1 | 2 | |
| Sensor2 | 1 | |
| Sensor2 | none | |
| Activity detection | none | Activity detection |
| | Apply | Cancel |

### Sensor1/Sensor2/Sensor3

リストボックスから各センサー入力に対応させるプリセットポジションが記憶されているプリセット番号を選択します。プリセットポジションに対応させない場合は、［none］を選択します。

### Activity detection

リストボックスから動体検知機能に対応させるプリセットポジションが記憶されているプリセット番号を選択します。
[Activity detection] をクリックすると、Activity detection 設定ページが表示されます。（「動体検知機能を設定する－ Activity detection 設定ページ」46 ページ）

### Apply/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

## プリセットポジションの設定を確認する－ Preset position table 部

| Preset No | Name | Position at alarm |
|---|---|---|
| No.1 | Door 1 | Sensor2 |
| No.2 | Door 2 | Sensor1 |
| No.3 | Exit | |
| No.4 | | |
| No.5 | Conferrence room | |
| No.6 | | |
| No.7 | | |
| No.8 | | |
| No.9 | | |
| No.10 | | |
| No.11 | | |
| No.12 | | |
| No.13 | | |
| No.14 | | |
| No.15 | | |
| No.16 | | |

各プリセット番号のプリセットポジション名（Name）およびアラームとの連動（Position at alarm）が表示されます。

## ツアー動作を設定する－ Tour setting 部

16 のプリセットポジションをプログラムして、カメラをプログラムしたプリセットポジションに順次移動することができます（ツアー動作）。5 種類のツアー動作を設定できます。

| Tour setting | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Tour name | A | | | | | | | |
| Stay time | 1 (1 to 3600sec) | | | | | | | |
| Pan speed | 1 | | | | | | | |
| Tilt speed | 1 | | | | | | | |
| Sequence | 1 | 1 | end | end | end | end | end | end |
| | end | end | end | end | end | end | end | end |
| | Apply | Cancel | | | | | | |

### Tour name

ツアー名［A］、［B］、［C］、［D］、［E］をリストボックスから選択します。

### Stay time

各プリセットポジションで停止している時間（１～ 3600 秒）を設定します。

### Pan speed

パンの動作スピードをリストボックスから選択します。
選択できるスピードは［1］～［19］と［Fastest］です。数が大きいほど高速で動作します。［Fastest］を選択すると、最速スピードで動作します。

## Tilt speed

チルトの動作スピードをリストボックスから選択します。選択できるスピードは［1］～［15］と［Fastest］です。数が大きいほど高速で動作します。［Fastest］を選択すると、最速スピードで動作します。

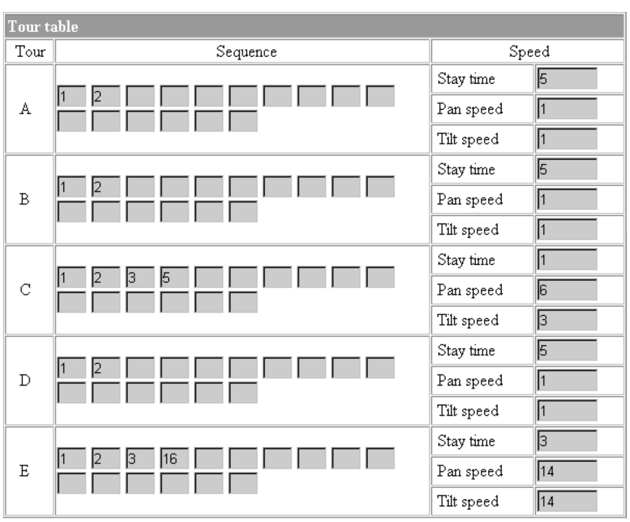
## Sequence

16 個のリストボックスのそれぞれに、プリセット番号［1］～［16］を選択します。カメラは選択したプリセット番号に記憶されたプリセットポジションに順次移動します。
カメラが移動する順番は、左から右、上から下のリストボックスに選択されたプリセットポジションです。右下まで移動すると左上に戻ります。この動作を繰り返します。
リストボックスに［end］を選択すると、その前のポジションでプログラムは終了し、カメラは 1 番目のポジションに戻ります。この動作を繰り返します。

## Apply/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# ツアー設定内容を確認する－ Tour table 部




## Sequence

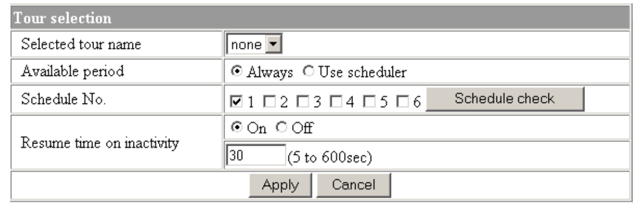
ツアー名［A］、［B］、［C］、［D］、［E］にプログラムされたプリセット番号の順番を表示します。

## Speed

各ツアーの停止時間（Stay time）、パン速度（Pan speed）、チルト速度（Tilt speed）を表示します。

# ツアーを動作させる－ Tour selection 部

スケジュールと連動してツアーを動作させることができます。




## Selected tour name

動作させるツアー名［A］、［B］、［C］、［D］、［E］を選択します。
ツアーを動作させない場合や、現在動作中のツアーを停止させたい場合には [none] を選択します。

## Available period

ツアー動作の有効期間を選択します。

**[Always]**：常に選択したツアーが動作します。

**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってツアーが動作します。

## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、ツアー動作を実行するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

## Resume time on inactivity

ツアー動作中にカメラ操作部のパン、チルト、ズーム操作によりカメラ操作を行った後や、アラームによるプリセット動作を行った後のツアー動作を選択します。
[On] を選択したときは、テキストボックスにツアー再開までの待ち時間を 5 ～ 600 秒の範囲で設定することができます。ツアー動作停止後、指定した時間が経過後自動的にツアーが再開します。[Off] を選択したときは、ツアー動作は停止したままとなります。このとき Selected tour name は [none] になります。

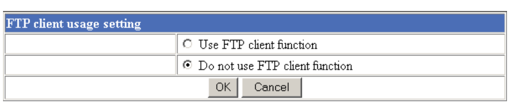
**ご注意**

ツアー動作中にカメラ設定（20 ページ）を行うと、設定が反映されない場合があります。

# FTP サーバーへ画像を送信する
## – FTP client 設定ページ

管理者設定メニューの［FTP client］をクリックすると、FTP client 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その時点でキャプチャーされた静止画像やその前後の連続静止画をFTP サーバーに送信することができます（FTP クライアント機能）。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。

## FTP クライアント機能を ON/OFF する– FTP client usage setting ページ

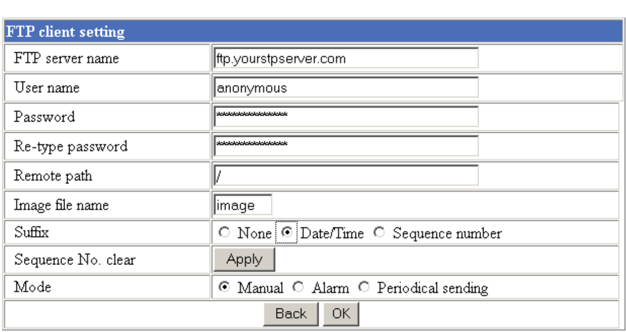



FTP クライアント機能を使用するときは、［Use FTP client function］を選択し、[OK] をクリックします。
FTP client setting ページが表示されます。
FTP クライアント機能を使用しないときは、［Do Not use FTP client function］を選択し、[OK] をクリックします。

**ご注意**

FTP クライアント機能によるファイル転送中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

## FTP クライアント機能の基本設定をする– FTP client setting ページ




### FTP server name

アップロードする FTP サーバー名を、半角 64 文字以下で、または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

### User name

FTP サーバーに対するユーザー名を入力します。

### Password

FTP サーバーに対するパスワードを入力します。

### Re-type password

パスワードの確認のため、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

### Remote path

送信先パスを、半角 64 文字以内で入力します。

### Image file name

FTP サーバーに送信する画像の基本ファイル名を、半角英数字と - ( ハイフン ) 、_ （アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

### Suffix

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

**[None]**：送信されるファイル名は基本ファイル名になります。

**[Date/Time]**：送信されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日 (2 桁) ＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）＋連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

**[Sequence number]**：送信されるファイル名は基本ファイル名に連続番号が付加されます。
連続番号のサフィックスは、0000000000 ～ 4294967295 までの 10 桁がファイル名に付加されます。

**ご注意**

Mode を [Alarm] に設定しているときは、アラームの種類と、アラーム入力とキャプチャーのタイミングを表わす以下のサフィックスが付加されます。
アラームの種類：S1（センサー 1）、S2（センサー 2）、S3（センサー 3）、AD（動体検知機能）
キャプチャーのタイミング：PR（アラーム前）、JT（アラームの瞬間）、PT（アラーム後）

## Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

## Mode

FTP クライアント機能の動作モードを選択します。

**[Manual]**：マニュアルで FTP サーバーに静止画像を送信します。選択後、[OK] をクリックすると、FTP クライアント機能がマニュアルモードに設定されます。このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、FTP サーバーに転送されます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ）

**[Alarm]**：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動して FTP サーバーに静止画像を送信します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（34 ページ）。

**ご注意**

Suffix を [None] に設定しているときは、[Alarm] モードを選択できません。[Alarm] モードに設定したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

**[Periodical sending]**：定期的に FTP サーバーに静止画像を送信します。選択すると、Periodical sending mode 設定部が表示されます（34 ページ）。

## Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# Alarm mode 設定部

| | | |
|---|---|---|
| Alarm | ☑ Sensor 1 | |
| | ☐ Sensor 2 | |
| | ☐ Sensor 3 | |
| | ☐ Activity detection | Activity detection |
| Available period | ◉ Always ○ Use scheduler | |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 | Schedule check |
| Alarm buffer configuration | Alarm buffer | |
| Digest viewer | ◉ On ○ Off | |
| | Back OK | |

## Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームを検出すると、その前後の連続静止画が FTP サーバーに送信されます。

**[Sensor 1]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー

**[Sensor 2]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー

**[Sensor 3]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 3 に接続されている外部センサー

**[Activity detection]**：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（46 ページ）。

## Available period

選択したアラームモードの動作有効期間を選択します。

**[Always]**：常にアラームモードが動作します。

**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、選択したアラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

## Alarm buffer configuration

[Alarm buffer] をクリックすると、Alarm buffer 設定ページが表示されます。（「アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ」44 ページ）

**ご注意**

設定したアラームバッファ処理中に次のアラームが入ると、そのアラーム処理は無視されます。

## Digest viewer

［On］を選択すると、選択したアラームが検出されるたびに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が付加されます。
付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。
（「ダイジェストビューアーを操作する」35 ページ）

# Periodical sending mode 設定部

| | | |
|---|---|---|
| Interval time | 00 H 10 M 00 S | |
| Available period | ◉ Always ○ Use scheduler | |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 | Schedule check |

## Interval time

FTP サーバーに定期的に画像を送信する時間間隔を設定します。
最短 1 秒間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

**ご注意**

画像サイズやネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

## Available period

Periodical sending モードの動作有効期間を選択します。

**[Always]**：常に Periodical sending モードが動作します。

**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical sending モードが動作します。

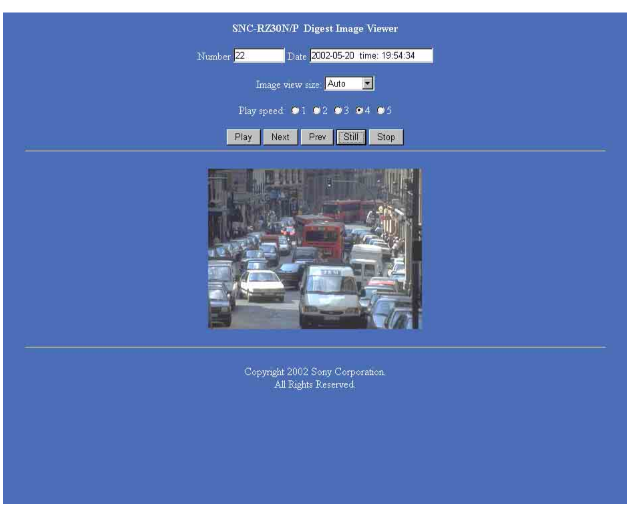
## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical sending モードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

# ダイジェストビューアーを操作する

表示させたい HTML ファイルと Java Script ファイル、JPEG 画像ファイル群をコンピューターにダウンロードし、ブラウザで HTML ファイルを開くと、ダイジェストビューアーが表示されます。

**ダイジェストビューアー**




## Number

連続した静止画像番号を表示します。

## Date

画像がキャプチャーされた日付と時刻を表示します。

## Image view size

ビューアーに表示する画像のサイズを [Auto]、［160 × 120］、［320 × 240］、［640 × 480］の中から選択します。
[Auto] を選択したときは、Camera 設定ページの Image size（20 ページ）で設定した画像サイズで表示されます。

## Play speed

再生速度を［1］～［5］の中から選択します。［5］が最速です。

**ご注意**

コンピューターの性能により、再生速度を早く設定すると再生できない場合があります。この場合は、再生速度を遅くしてください。

## Play

クリックすると、再生が始まります。最終静止画像表示後、再生は止まります。

## Next

静止画像モード時、クリックすると次の番号の静止画像が表示されます。

## Prev

静止画像モード時、クリックすると 1 つ前の番号の静止画像が表示されます。

## Still

再生中にクリックすると、一時停止します。

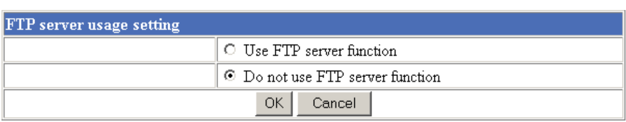
## Stop

クリックすると、Number 1 の静止画像が表示されます。

# カメラから画像をダウンロードする – FTP server 設定ページ

管理者設定メニューの［FTP server］をクリックすると、FTP server 設定ページが表示されます。
このページでは、コンピューターの FTP クライアントソフトウェアを使用して、本カメラに内蔵のメモリー（約 8MB）、または PC カードスロットに入れた ATA メモリーカード内に記録された静止画像ファイルを検索したり、ダウンロードする FTP サーバー機能の設定を行います。

## FTP サーバー機能を ON/OFF する – FTP server usage setting ページ



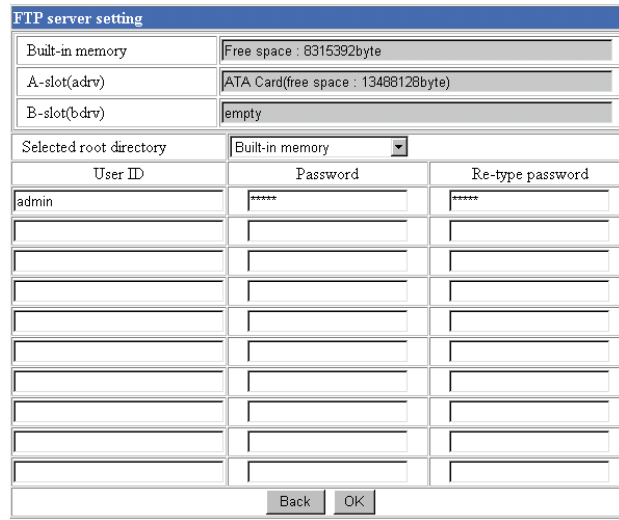

FTP サーバー機能を使用するときは、［Use FTP server function］を選択し、［OK］をクリックします。FTP server setting ページが表示されます。
FTP サーバー機能を使用しないときは、［Do not use FTP server function］を選択し、［OK］をクリックします。

**ご注意**

- FTP サーバー機能を使用すると、メインビューアー画面のモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。
- ATA メモリーカードを取り外すときや、ATA メモリーカードが入った状態でカメラの電源を切るときは、FTP サーバー機能を OFF にしてください。

## FTP サーバー機能の基本設定をする – FTP server setting ページ

コンピューターの FTP クライアントソフトウェアからログインを許可するユーザー名とパスワードを登録します。10 種類のユーザー名とパスワードが登録できます。




### Built-in memory

本カメラの内蔵メモリーの空き容量を表示します。

### A-slot (adrv)/B-slot (bdrv)

PC カードスロットに入れた PC カードの種類と空き容量を表示します。レンズ側の PC カードスロットが A-slot、底板側が B-slot です。

### Selected root directory

検索やダウンロードしたいファイルが記録されているディレクトリーをリストボックスから選択します。
**[Built-in memory]**：本カメラの内蔵メモリー
**[ATA memory card（A-slot）]**：A スロットに入れた ATA メモリーカード
**[ATA memory card（B-slot）]**：B スロットに入れた ATA メモリーカード

### User ID

ユーザー名を 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

### Password

パスワードを 4 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

### Re-type password

パスワードの確認のために、Password 欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

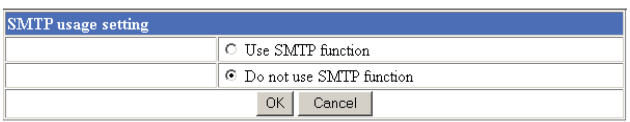
### Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# E メールに画像を添付して送る
## － SMTP 設定ページ

管理者設定メニューの［SMTP］をクリックすると、SMTP 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その時点でキャプチャーされた静止画像を E メールに添付して送信するための設定を行います。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。

## SMTP 機能を ON/OFF する－ SMTP usage setting ページ

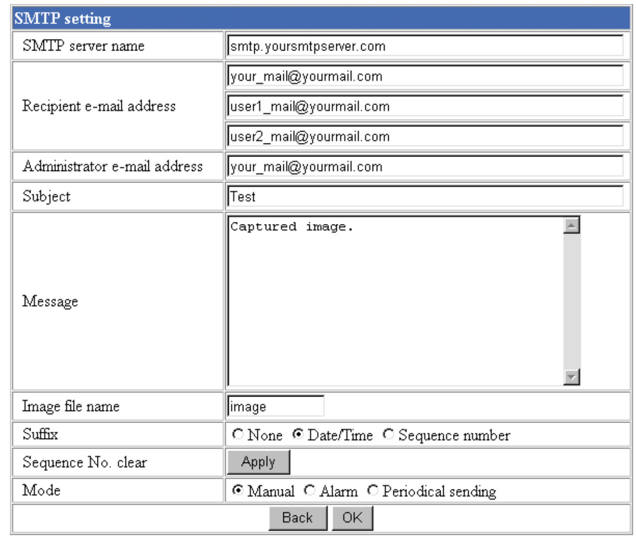



SMTP 機能を使用するときは、［Use SMTP function］を選択し、［OK］をクリックします。SMTP setting ページが表示されます。
SMTP 機能を使用しないときは、［Do not use SMTP function］を選択し、［OK］をクリックします。

**ご注意**

E メールで画像ファイルを送信中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

## SMTP 機能の基本設定をする － SMTP setting ページ




### SMTP server name

SMTP メールサーバー名を、半角 64 文字以内で、または SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

### Recipient e-mail address

送信先のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
3 送信先まで入力できます。

### Administrator e-mail address

管理者のメールアドレスを、半角 64 文字以内で入力します。
メールの返信および本カメラのエラーメッセージ返信の宛先となります。

### Subject

メールの件名／題名を半角 64 文字以内で入力します。

### Message

メールの本文を半角 384 文字以内（改行は 2 文字換算）で入力します。

### Image file name

E メールに添付して送信する画像の基本ファイル名を、半角英数字と -（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

## Suffix

E メールに添付して送信されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

**[None]**：送信されるファイル名は基本ファイル名になります。

**[Date/Time]**：送信されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）、合計 12 文字がファイル名に付加されます。

**[Sequence number]**：送信されるファイル名は基本ファイル名に連続番号が付加されます。
連続番号のサフィックスは、0000000000 ～ 4294967295 までの 10 桁がファイル名に付加されます。

## Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

## Mode

SMTP 機能の動作モードを選択します。

**[Manual]**：マニュアルで静止画像を添付した E メールを送信します。選択後、[OK] をクリックすると、SMTP 機能がマニュアルモードに設定されます。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、E メールに添付して転送されます。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ）

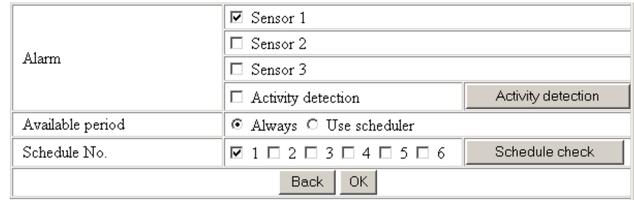
**[Alarm]**：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動して静止画像を添付した E メールを送信します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます。（38 ページ）

**[Periodical sending]**：定期的に静止画像を添付した E メールを送信します。選択すると、Periodical sending mode 設定部が表示されます。（39 ページ）

## Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# Alarm mode 設定部




## Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームが検出されると、その瞬間の静止画像が E メールに添付されて送信されます。

**[Sensor 1]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー

**[Sensor 2]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー

**[Sensor 3]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 3 に接続されている外部センサー

**[Activity detection]**：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（46 ページ）。

**ご注意**

E メールに添付される画像は、アラーム入力があった瞬間の画像 1 枚です。アラーム入力による画像処理中に次のアラーム入力があった場合、そのアラームは無視されます。

## Available period

SMTP 機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。

**[Always]**：常にアラームモードが動作します。

**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、SMTP 機能のアラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

## Periodical sending mode 設定部

| | |
|---|---|
| Interval time | 01 H 00 M (More than 30 min) |
| Available period | ◉ Always ○ Use scheduler |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 [Schedule check] |

### Interval time

定期的に画像を添付して E メールを送信する時間間隔を設定します。
最短 30 分間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

### Available period

Periodical sending モードの動作有効期間を選択します。

**[Always]**：常に Periodical sending モードが動作します。

**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical sending モードが動作します。

### Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical sending モードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

# アラーム出力 1、2 を設定する－ Alarm out 1、2 設定ページ

管理者設定メニューの［Alarm out 1］をクリックすると、Alarm out 1 設定ページが表示されます。［Alarm out 2］をクリックすると、Alarm out 2 設定ページが表示されます。
このページでは、マニュアルトリガーボタンや Day/Night 機能、外部センサー入力、タイマーに連動して、カメラ後部の I/O ポートのアラーム出力 1 またはアラーム出力 2 を制御するための設定を行います。
アラーム出力 1 とアラーム出力 2 で設定できる内容は同じです。ここでは、アラーム出力 1 を例として説明しています。

## アラーム出力 1 機能を ON/OFF する－ Alarm out 1 usage setting ページ

| Alarm out 1 usage setting | |
|---|---|
| | ◉ Use alarm out 1 function |
| | ○ Do not use alarm out 1 function |
| [OK] [Cancel] | |

アラーム出力 1 機能を使用するときは、［Use alarm out 1 function］を選択し、［OK］をクリックします。
Alarm out 1 setting ページが表示されます。
アラーム出力 1 機能を使用しないときは、［Do not use alarm out 1 function］を選択し、［OK］をクリックします。

## アラーム出力 1 機能の基本設定をする－ Alarm out 1 setting ページ

| Alarm out 1 setting | |
|---|---|
| Mode | ◉ Manual ○ Day/Night ○ Alarm ○ Timer |
| [Back] [OK] | |

### Mode

アラーム出力 1 機能の動作モードを選択します。

**[Manual]**：マニュアルでアラーム出力 1 を制御できます。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックするたびにアラーム出力 1 の開放と短絡が切り換わります。（「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ）

**[Day/Night]**：カメラの Day/Night 機能と連動してアラーム出力 1 を制御できます。選択すると、[Day/Night setting] ボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、Camera 設定ページが表示され、Day/Night 機能の設定ができます。(23 ページ)
Night モード時はアラーム出力 1 に対応するリレーが短絡状態になります。Day モード時は開放状態になります。

**[Alarm]**：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動してアラーム出力 1 を制御できます。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（40 ページ)。

**[Timer]**：時刻と連動してアラーム出力 1 を制御できます。選択すると、Timer mode 設定部が表示されます。(40 ページ)

## Alarm mode 設定部

| | | |
|---|---|---|
| Ararm | ☑ Sensor 1 | |
| | ☐ Sensor 2 | |
| | ☐ Sensor 3 | |
| | ☐ Activity detection | Activity detection |
| Available period | ◉ Always ○ Use scheduler | |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 | Schedule check |
| Alarm duration | 1 | |
| Back OK | | |

### Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームの検出と連動してアラーム出力 1 を制御できます。
**[Sensor 1]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー
**[Sensor 2]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー
**[Sensor 3]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 3 に接続されている外部センサー
**[Activity detection]**：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（46 ページ)。

### Available period

アラーム出力 1 機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。
**[Always]**：常にアラームモードが動作します。
**[Use scheduler]**：下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

### Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、アラームモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。(「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ)

### Alarm duration

アラーム出力 1 を短絡する時間（1 ～ 60 sec）を選択します。

## Timer mode 設定部

| | | |
|---|---|---|
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 | Schedule check |
| Back OK | | |

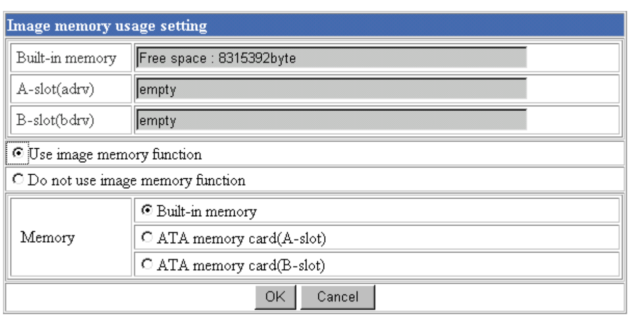
### Schedule No.

アラーム出力 1 のタイマーモードが動作するスケジュールを選択します。
Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。選択したスケジュールの開始時刻になるとアラーム出力 1 が短絡し、終了時刻になるとアラーム出力 1 が開放になります。
スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。(「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ)

# メモリーに画像を記録する－ Image memory 設定ページ

管理者設定メニューの［Image memory］をクリックすると、Image memory 設定ページが表示されます。
このページでは、外部センサー入力や内蔵の動体検知機能、マニュアルトリガーボタンと連動して、その瞬間にキャプチャーされた静止画像をカメラの内部メモリー（約 8MB）や ATA メモリーカードに記録するイメージメモリー機能の設定を行います。また、静止画像を定期的に送信することも可能です。
記録された画像ファイルは、FTP サーバー機能を使用して、検索したり、コンピューターへダウンロードすることができます。（「カメラから画像をダウンロードする － FTP server 設定ページ」36 ページ）
動作確認済みのカードについては、ソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

## イメージメモリー機能の ON/OFF と基本設定をする－ Image memory usage setting ページ




### Built-in memory

本カメラの内蔵メモリーの空き容量を表示します。

### A-slot/B-slot

PC カードスロットに入れた PC カードの種類と空き容量を表示します。レンズ側の PC カードスロットが A-slot、底板側が B-slot です。

### Use image memory function/Do not use image memory function

イメージメモリー機能を使用するときは、［Use image memory function］を選択します。［OK］をクリックすると、Image memory setting ページが表示されます。
イメージメモリー機能を使用しないときは、［Do not use image memory function］を選択し、［OK］をクリックします。

### Memory

画像を記録したいメモリーを選択します。

**[Built-in memory]**：本カメラの内蔵メモリー（約 8 MB）

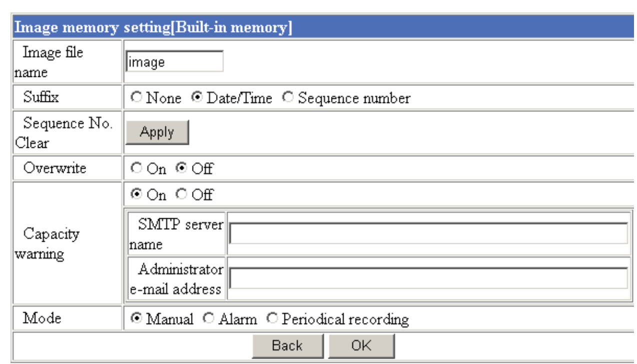
**[ATA memory card（A-slot）]**：A スロットに入れた ATA メモリーカード

**[ATA memory card（B-slot）]**：B スロットに入れた ATA メモリーカード

**ご注意**

- 内蔵メモリーに記録された画像は電源を切ると消えます。
- 画像の記録中は、メインビューアーページのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。
- ATA メモリーカードを取り外すときや、ATA メモリーカードが入った状態でカメラの電源を切るときは、イメージメモリー機能を OFF にしてください。
- カードを抜き差しする場合は、10 秒以上の間隔をあけてください。

## 選択したメモリーに画像を記録する－ Image memory setting ページ




### Image file name

メモリーに記録される画像の基本ファイル名を、半角英数字と - ( ハイフン )、_ （アンダースコア）を使って 6 文字以内で入力します。

### Suffix

メモリーに記録されるファイル名に付けるサフィックス（接尾部）を選択します。

**[None]**：記録されるファイル名は基本ファイル名になります。

**[Date/Time]**：記録されるファイル名は基本ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）+ 連続番号（2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

**[Sequence number]**：記録されるファイル名は基本ファイル名に連続番号が付加されます。
連続番号のサフィックスは、0000000000 ～ 4294967295 までの 10 桁がファイル名に付加されます。

**補足**

Mode を [Alarm] に設定しているときは、アラームの種類とアラーム入力とキャプチャーのタイミングを表わすサフィックスが付加されます。
アラームの種類：S1（センサー 1)、S2（センサー 2)、S3（センサー 3)、AD（動体検知機能）
キャプチャーのタイミング：PR（アラーム前)、JT（アラームの瞬間)、PT（アラーム後）

## Sequence No. clear

[Apply] をクリックすると、Sequence number（連続番号）サフィックスが 0 に戻ります。

## Overwrite

メモリーの空き容量がなくなりファイルの記録ができなくなった場合、上書きするかどうかを選択します。
［On］を選択すると、上書き許可となり、日付の古いフォルダー（ファイル）から上書きされます。
［Off］を選択すると、上書き禁止となり、メモリーに記録されません。

## Capacity warning

イメージメモリー機能の動作により、メモリーの空き容量が少なくなってきたり、メモリーがいっぱいになった場合に管理者宛に警告メールを送信する機能です。[On] を選択すると警告メールを送信します。下欄に SMTP server name と Administrator e-mail address の設定欄が表示されます。[Off] を選択すると警告メールは送信されません。

### SMTP server name

メール送信に使用する SMTP サーバー名または SMTP サーバーの IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

### Administrator e-mail address

警告メールの送信先のメールアドレス ( 管理者メールアドレス ) を半角 64 文字以内で入力します。

## Mode

イメージメモリー機能の動作モードを選択します。

**[Manual]**：選択したメモリーにマニュアルで静止画像を記録します。
このモードでは、メインビューアーページの トリガーボタンをクリックすると、その時点の静止画像がキャプチャーされ、選択したメモリーに記録されます。(「マニュアルでアプリケーションを操作する」14 ページ)

**[Alarm]**：外部センサー入力や内蔵の動体検知機能と連動して選択したメモリーに静止画像を記録します。選択すると、Alarm mode 設定部が表示されます（42 ページ)。

**ご注意**

Suffix を [None] に設定しているときは、[Alarm] モードを選択できません。[Alarm] モードに設定したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

**[Periodical recording]**：選択したメモリーに定期的に静止画像を記録します。選択すると、Periodical recording mode 設定部が表示されます（43 ページ)。

# Alarm mode 設定部

| | | |
|---|---|---|
| Alarm | ☑ Sensor 1 | |
| | ☐ Sensor 2 | |
| | ☐ Sensor 3 | |
| | ☐ Activity detection | Activity detection |
| Available period | ◉ Always ○ Use scheduler | |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 | Schedule check |
| Alarm buffer configuration | Alarm buffer | |
| Digest viewer | ◉ On ○ Off | |
| | Back OK | |

## Alarm

連動するアラームを選択します。選択したアラームの検出と連動してキャプチャーされた静止画像を選択したメモリーに記録します。

**[Sensor 1]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 1 に接続されている外部センサー

**[Sensor 2]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 2 に接続されている外部センサー

**[Sensor 3]**：カメラの I/O ポートのセンサー入力 3 に接続されている外部センサー

**[Activity detection]**：カメラに内蔵の動体検知機能
[Activity detection] ボタンをクリックすると、

Activity detection 設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（46 ページ）。

## Available period

イメージメモリー機能のアラームモードの動作有効期間を選択します。

**[Always]：**常にアラームモードが動作します。

**[Use Scheduler]：**下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従ってアラームモードが動作します。

## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、イメージメモリー機能のアラームモードが動作するスケジュールを選択します。

Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。

スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

## Alarm buffer configuration

[Alarm buffer] をクリックすると、Alarm buffer 設定ページが表示されます。（「アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ」44 ページ）

**ご注意**

設定したアラームバッファ処理中に次のアラームが入ると、そのアラーム処理は無視されます。

## Digest viewer

［On］を選択すると、選択したアラームが検出されるたびに HTML ファイル (.html) と Java Script ファイル (.js) が付加されます。

付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。（「ダイジェストビューアーを操作する」35 ページ）

# Periodical recording mode 設定部

| | |
|---|---|
| Interval time | 00 H 10 M 00 S |
| Available period | ◉ Always ○ Use Scheduler |
| Schedule No. | ☑ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 [Schedule check] |
| Digest viewer | ○ On ◉ Off |
| | [Back] [OK] |

## Interval time

定期的に画像を記録する時間間隔を設定します。

最短 1 秒間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

**ご注意**

画像サイズや ATA メモリーカードの記録条件などにより、実際に記録される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

## Available period

イメージメモリー機能の Periodical recording モードの動作有効期間を選択します。

**[Always]：**常に Periodical recording モードが動作します。

**[Use scheduler]：**下記の Schedule No. で選択したスケジュールに従って Periodical recording モードが動作します。

## Schedule No.

Available period で［Use scheduler］を選択したとき、Periodical recording モードが動作するスケジュールを選択します。

Schedule No. 1 ～ 6 からチェックボックスをクリックしてスケジュールを選択します。

スケジュールを確認したいときは、[Schedule check] をクリックします。（「スケジュールを設定する－ Schedule 設定ページ」46 ページ）

## Digest viewer

［On］を選択すると、HTML ファイル (.html) と Java Script ファイル（.js）が 100 ファイルごとに自動的に付加されます。

付加された HTML ファイルを汎用ブラウザ上で開くと、ダイジェストビューアーが表示され、アラームバッファの連続した静止画像を自動送り（準動画）表示できます。（「ダイジェストビューアーを操作する」35 ページ）

**ご注意**

Suffix を [None] に設定しているときは、[On] を選択できません。ダイジェストビューアーを使用したい場合は、Suffix で [Date/Time] または [Sequence number] を選択してください。

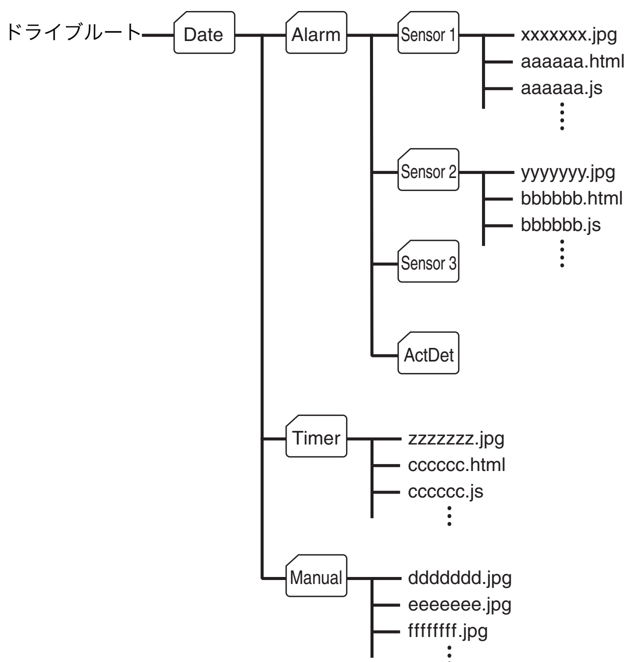
## Back/OK

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

## 画像メモリーのディレクトリー構造

メモリーに画像を記録すると、以下のようなディレクトリー構造で記録されます。

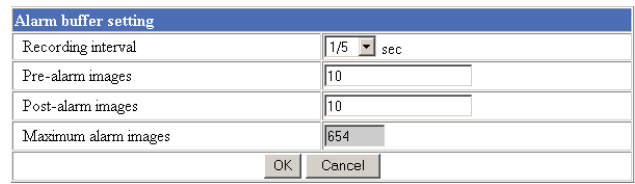
ATA memory card（A-slot）：A スロット
ATA memory card（B-slot）：B スロット
Built-in memory：C ドライブ
各スロットまたはドライブ内は以下のようなディレクトリー構造になっています。




□ は、自動的に生成されるフォルダーを表わします。
また、日付 (Date) フォルダーは西暦（下位２桁）＋月（２桁）＋日（２桁）の６桁数値のフォルダー名になります。
[Sensor1 ]、[Sensor2 ]、[Sensor3 ]、[ActDet] はアラームに対応するフォルダー、[Timer] は Periodical recording モードに対応するフォルダー、[Manual] はマニュアルモードに対応するフォルダーです。
それぞれのフォルダーに JPEG 画像ファイルが保存されます。また、ダイジェストビューアーを許可した場合は、アラームには、それぞれのイベントごとに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が自動生成されます。
Periodical recording モードの場合は、JPEG 画像ファイル 100 画像ごとに HTML ファイル（.html）と Java Script ファイル（.js）が自動生成されます。

# アラームバッファを設定する－ Alarm buffer 設定ページ

管理者設定メニューの［Alam buffer］をクリックすると、Alarm buffer setting ページが表示されます。
このページでは、FTP クライアント機能（33 ページ）やイメージメモリー機能（41 ページ）で使用されるアラームバッファの設定を行います。




### Recording interval

アラームバッファに記録する間隔（秒）をリストボックスから選択します。
以下の間隔を設定できます。
1/30, 1/15, 1/10, 1/5, 1/2, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10（秒）

### Pre-alarm images

アラームが検出される前（プリアラーム）の記録画像枚数を設定します。

### Post-alarm images

アラームが検出された後（ポストアラーム）の記録画像枚数を設定します。

### Maximum alarm images

現在設定されている画像サイズと画質で記録できるアラーム画像枚数の最大値を表示します。

**ご注意**

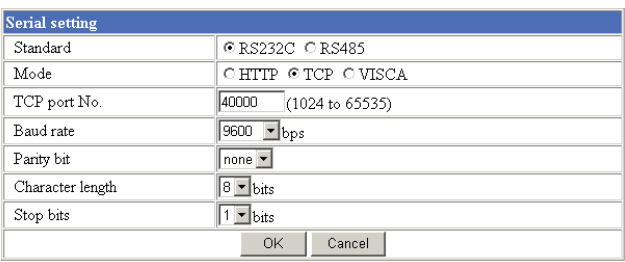
Maximum alarm images の値は、Camera 設定ページで設定した画像サイズ（Image size）と画質（Image quality）により変わります。
Pre-alarm images と Post-alarm images は、両方の枚数の和が Maximum alarm images の枚数を超えないように設定してください。
Pre-alarm images と Post-alarm images の両方とも [0] に設定すると、アラームが検出された瞬間の画像 1 枚のみが記録されます。

### OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# シリアル接続機器とデータの送受信を行う
## − Serial 設定ページ

管理者設定メニューの［Serial］をクリックすると、Serial 設定ページが表示されます。
このページでは、コンピューターからネットワーク経由でカメラに入力されたデータを外部シリアルインターフェースに出力して周辺接続機器をコントロールしたり、逆に周辺接続機器から外部シリアルインターフェースを通じて入力されたデータを、ネットワーク経由でコンピューターに出力するための設定を行います。
カメラに接続した周辺機器に合わせて設定してください。




### Standard

周辺シリアル機器と接続するシリアル規格［RS232C］または［RS485］を選択します。

**ご注意**

Standard で［RS485］を選択したときは、半二重通信になりますので、半二重通信対応周辺機器を接続してください。

### Mode

ネットワーク経由でのデータの送受信を、HTTP ポート（HTTP Generic Driver）を使用して行うか、TCP ポート（TCP Generic Driver）を使用して行うか、VISCA プロトコルを用いて本カメラのコントロールを行うかを選択します。

**[HTTP]**：HTTP を選択したときは、たとえば、コンピューター上で HTML でプログラムを作成し、その中に CGI コマンドを埋め込むことにより、データ送受信を実現できます。
CGI コマンドに関しては、お買い上げ店またはお近くのソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

**[TCP]**：TCP を選択したときは、TCP Port No. でポート番号を指定すると、外部シリアル通信ポートの入出力データの送受信ができます。DOS コマンド「telnet［ホスト名］［設定ポート番号］」によって簡単に確認できます。

**[VISCA]**：VISCA プロトコルを用いて、本カメラのコントロールを行う場合に選択します。
VISCA プロトコルのコマンドリストに関しては、お買い上げ店またはお近くのソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。

**ご注意**

・VISCA プロトコルを用いて本カメラのシリアルコントロールを行う場合には、接続するコントローラーと通信設定を合わせてご使用ください。
・本カメラは VISCA 機器のデイジーチェーン接続には対応しておりません。本カメラとコントローラーは 1 対 1 で接続してご使用ください。

### TCP port No.

Mode で［TCP］を選択したとき、TCP ポート（TCP Generic Driver）に対応するポート番号を入力します。
Well-Known ポート番号（0 ～ 1023）以外のポート番号を設定してください。

### Baud rate

シリアル接続した周辺機器に対応する通信ボーレートを選択します。
以下のボーレートが選択できます。
38400, 19200, 9600, 4800, 2400, 1200, 600 , 300 (bps)

### Parity bit

シリアル接続した周辺機器に対応するパリティを［None］、［Odd］、［Even］から選択します。

### Character length

シリアル接続した周辺機器に対応するキャラクター長［7］または［8］(bits) を選択します。

### Stop bits

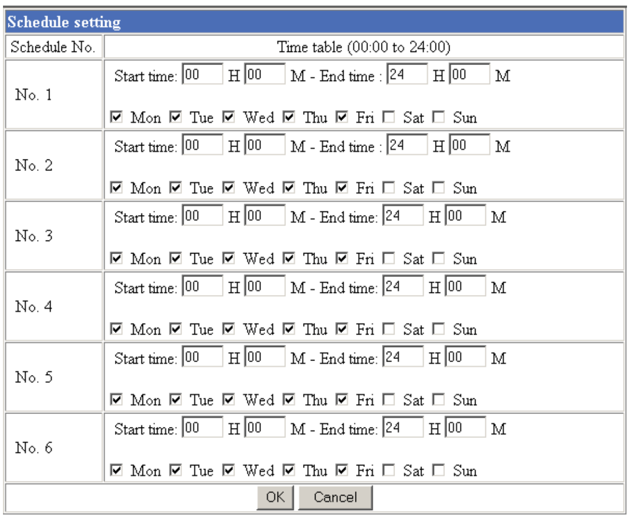
シリアル接続した周辺機器に対応するストップビット［1］または［2］(bits) を選択します。

### OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# スケジュールを設定する – Schedule 設定ページ

管理者設定メニューの［Schedule］をクリックすると、Schedule 設定ページが表示されます。
プリセットポジション機能、Day/Night 機能、FTP クライアント機能、SMTP 機能、アラーム出力 1、2 機能、イメージメモリー機能に使用する最大 6 種類のスケジュールをこのページで設定します。




## Schedule No. 1 ～ Schedule No. 6

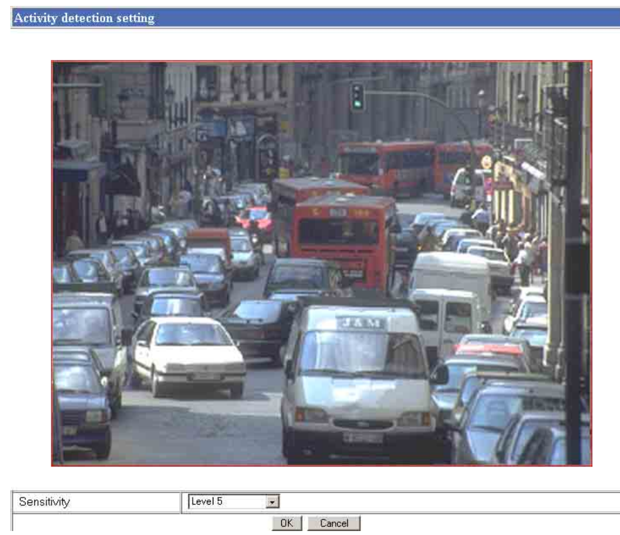
スケジュールごとに、Start time（動作開始時刻（時、分））、End time（動作終了時刻（時、分））を設定し、動作させたい曜日をチェックボックスで選択します。

## OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# 動体検知機能を設定する – Activity detection 設定ページ

管理者設定メニューの［Activity detection］をクリックすると、Activity detection 設定ページが表示されます。
動体検知機能は各アプリケーションに連動させることができます。




## Sensitivity

動体検知の感度をリストボックスから選択します。
［Level 1］～［Level 9］が選択できます。［Level 9］が最大感度です。

**補足**

動体検知の感度とは、動体検知エリア全体画素に対して変化したエリア（画素）の割合です。

## OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

## 動体検知領域を設定する

以下の手順で動体検知機能が働く領域を設定します。

**1** 動体検知を行いたい画角をパン、チルト、ズームを操作して決定する。

**2** 管理者設定メニューの［Activity detection］をクリックする。
静止画像がキャプチャーされ、Activity detection 設定ページが表示されます。

**3** 表示された静止画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグする。
赤い枠で囲まれたエリアが動体検知の対象になります。
工場出荷時は全領域が対象エリアに指定されています。

**ご注意**

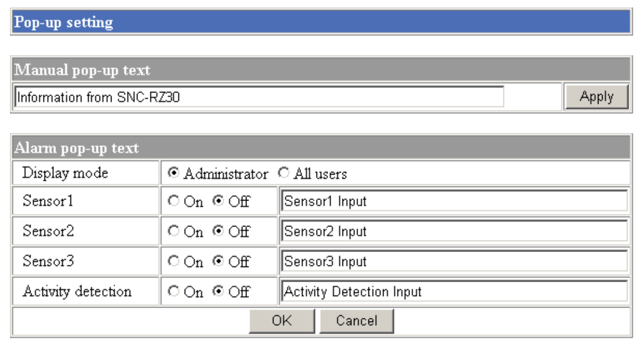
動体検知機能（Activity detection）をお使いのときは、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してからお使いください。

また、以下の場合、動体検知機能が正常に動作しないことがあります。
- Camera setting ページの Stabilizer（手ブレ補正）を［On］に設定しているとき
- Camera setting ページの Day/Night 機能をお使いのとき
- Camera setting ページでカメラの設定変更を行っているとき
- Camera setting ページ の Focus mode を［Auto］（オートフォーカス）に設定しているとき
- ズームを望遠側（ズームイン）に操作しているとき
- 被写体が暗いとき
- カメラが設置された場所が不安定で、カメラが振動するとき

# ポップアップ画面を表示する

## – Pop-up 設定ページ

管理者設定メニューの［Pop-up］をクリックすると、Pop-up 設定ページが表示されます。
このページでは、カメラ画像をモニターしているコンピューター画面上に、任意のテキストを入力したポップアップ画面を表示させたり、アラーム入力があったとき、自動的にポップアップ画面を表示させるための設定を行います。




### Manual pop-up text

ポップアップ画面に表示するテキスト文を半角 1 ～ 64 文字で入力します。
[Apply] をクリックすると、カメラ画像をモニターしているすべてのコンピューター画面上に、ポップアップ画面が表示されます。

### Alarm pop-up text

#### Display　mode

アラーム入力があったとき、ポップアップ画面を表示させるコンピューターを選択します。

**[Administrator]**：管理者としてログインしてカメラ画像をモニターしているコンピューター画面にのみポップアップ画面を表示します。

**[All users]**：カメラ画像をモニターしているすべてのコンピューター画面上にポップアップ画面を表示します。

#### Sensor1/Sensor2/Sensor3/Activity detection

各センサーによるアラームに対してポップアップ画面を表示させるときは［On］、表示させないときは［Off］を選択します。
各項目のテキストボックスには、ポップアップ画面に表示するテキスト文を半角 1 ～ 64 文字で入力します。

### OK/Cancel

「各設定ページの共通ボタン」（17 ページ）をご覧ください。

# 付属のセットアッププログラムを使う

ネットワークを介してカメラに接続するためには、カメラに新しい IP アドレスを割り当てる必要があります。初めてカメラを設置したときは、カメラに IP アドレスを割り当ててください。
IP アドレスの割り当ての方法には、次の 2 とおりがあります。

- 付属の CD-ROM に収録されているセットアッププログラムを使う ( 下記 )
- ARP (Address Resolution Protocol) コマンドを使う（51 ページ）

ここでは、付属のセットアッププログラムを使って IP アドレスを割り当て、ネットワーク設定をする方法を説明します。
付属のセットアッププログラムでは、ネットワーク設定のほかに通信帯域の制限や、日付・時刻の設定もできます。

操作の前に、付属の設置説明書の「カメラに IP アドレスを割り当てる」をご覧になって、カメラをコンピューターまたはネットワークに接続してください。

**ご注意**

- お使いのコンピューターにパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、セットアッププログラムが正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または「ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる」（51 ページ）などの別の方法で IP アドレスを割り当ててください。
- Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista をご利用の場合は、「Windows ファイアウォール機能」を［無効］にしないと IP Setup Program が正常に動作しません。設定のしかたは、「Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」(55 ページ)、または「Windows Vista をご利用の場合－ Windows ファイアウォールの設定について」（57 ページ）をご覧ください。

## セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する

**1** CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れる。

Windows Vista をご利用の場合、CD-ROM を入れると「自動再生」のポップアップメッセージが表示されることがあります。詳しくは、「Windows Vista をご利用の場合－ソフトウェアのインストールについて」（56 ページ）をご覧ください。

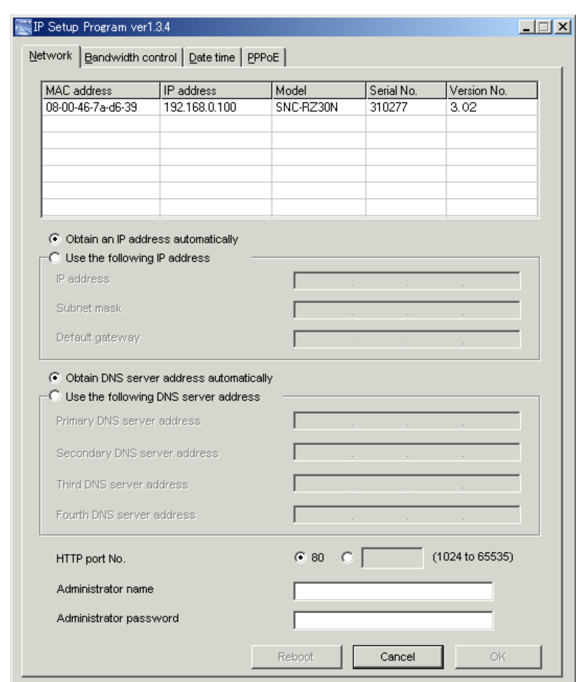
**2** CD-ROM ドライブ内の Setup フォルダをダブルクリックして開く。

**3** Setup.exe をダブルクリックする。

**4** 画面に表示されるウィザードに従って「IP Setup Program」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

**5** IP Setup Program を起動する。

Windows Vista をご利用の場合、起動時に「ユーザーアカウント制御 （認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています)」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックしてください。
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているネットワークカメラを検出してリスト表示します。



**6** リストからIPアドレスを割り当てたいカメラをクリックして選択する。
選択されたカメラのネットワーク設定状況が画面に表示されます。

**7** IPアドレスを設定する。

**IPアドレスをDHCPサーバーから自動的に取得するときは**
[Obtain an IP address automatically]を選択します。
IP address（IPアドレス）、Subnet mask（サブネットマスク）、Default gateway（デフォルトゲートウェイ）が自動的に割り当てられます。

**固定IPアドレスを設定するときは**
[Use the following IP address]を選択し、IP address、Subnet mask、Default gateway欄にそれぞれの値を入力します。

**ご注意**

[Obtain an IP address automatically]を選択する場合は、ネットワーク上でDHCPサーバーが稼動していることを確認してください。

**8** Primary DNS server address欄にDNSサーバーアドレスを入力する。
必要があれば、Secondary DNS server address欄も入力します。

**DNSサーバーアドレスを自動取得するには**
[Obtain DNS server address automatically]を選択します。

**DNSサーバーアドレスを自動取得しないときは**
[Use the following DNS server address]を選択してから、Primary DNS server addressおよびSecondary DNS server address欄にDNSサーバーアドレスを入力します。

**ご注意**

本機ではThird DNS server address、Fourth DNS server address欄は入力しても無効です。

**9** HTTPポート番号を設定する。
通常は、HTTP port No.の[80]を選択します。
[80]以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号1024～65535を入力します。

**10** Administrator nameとAdministrator password欄に管理者の名前とパスワードを入力する。
工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

**ご注意**

ここでは、管理者の名前とパスワードの変更はできません。
変更のしかたは、「ユーザー設定をする － User設定ページ」（28ページ）をご覧ください。

**11** 正しく設定されていることを確認してから[OK]をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、IPアドレスの設定は終了です。

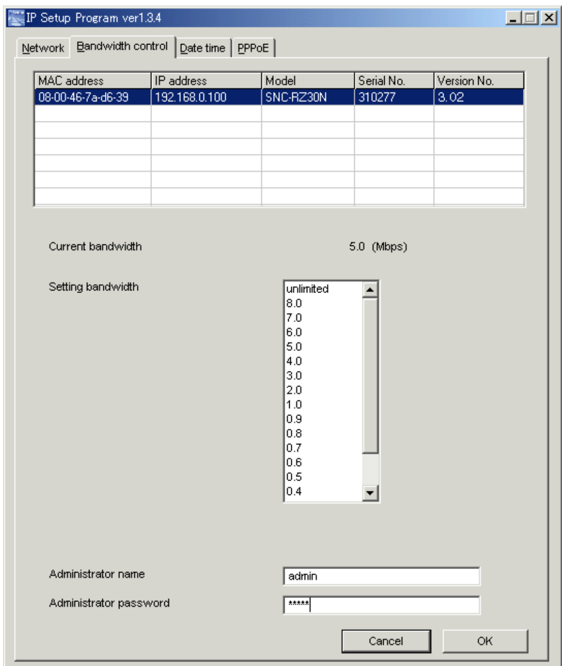
**補足**

工場出荷時のカメラのネットワークは次のように設定されています。
IP address（IPアドレス）：192.168.0.100
Subnet mask（サブネットマスク）：255.0.0.0

**ワイヤレスLAN設定**
Type（タイプ）：802.11Ad hoc mode
SSID：snc-rz30
Channel（チャンネル）：11ch
WEP：Off
IP address（IPアドレス）：10.0.0.100
Subnet mask（サブネットマスク）：255.0.0.0

## 通信帯域を変更する

**1** Bandwidth control タブをクリックして帯域制限設定画面を表示する。
現在設定されている帯域制限が Current bandwidth 欄に表示されます。




**2** Setting bandwidth リストボックスから、変更したい帯域制限をクリックして選択する。

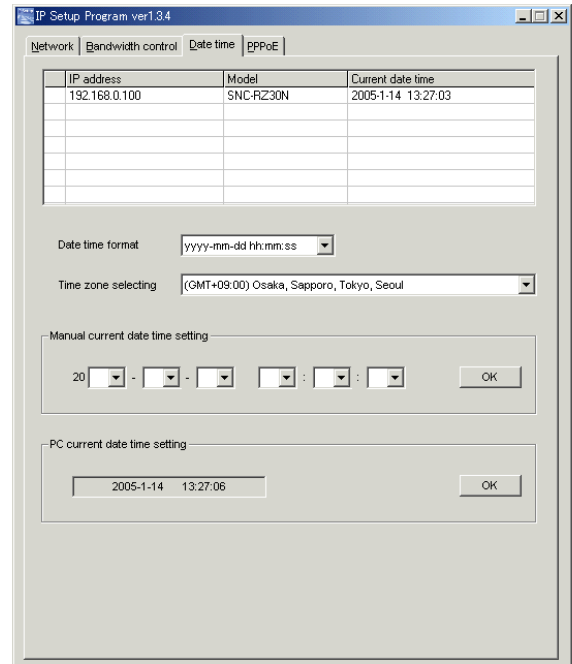
**3** Administrator name と Administrator password 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

**4** ［OK］をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、帯域制限の設定は終了です。

## 日付、時刻を設定する

本カメラの日付と時刻を設定します。

**1** Date time タブをクリックして日付・時刻設定画面を表示する。




**2** リストから日付・時刻を設定したいカメラをクリックして選択する。
複数のカメラを選択して、同時に日付・時刻を設定することができます。

**3** Date time format リストボックスから、日付・時刻のフォーマットを選択する。

**4** Time zone selecting のリストボックスから、カメラが設置されている地域を選択する。

**5** 日付・時刻を設定する。
次の２とおりの設定方法があります。

**マニュアルで設定する**
Manual current date time setting の各ボックスに現在の日付と時刻を設定する。
ボックスは、左から「年（下２桁）」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」です。
設定が終わったら右端の［OK］をクリックするとカメラに反映されます。

**コンピューターの日付・時刻に合わせる**
PC current date time setting 欄にコンピューターに設定されている日付と時刻が表示されています。

この日付・時刻に設定するときは、右端の［OK］をクリックします。

**ご注意**

ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。

## カメラを再起動する

Network タブの［Reboot］をクリックすると、カメラを再起動できます。
再起動には、10 〜 20 秒かかります。

# ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる

ここでは、付属のセットアッププログラムを使わずに、ARP（Address Resolution Protocol）コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

**ご注意**

ARP および PING コマンドの実行は、本機の電源を入れてから 5 分以内に行ってください。
また、本機を再起動した場合も、再起動してから 5 分以内に操作を行ってください。

**1** コンピューター上で DOS ウインドウを開く。

**2** ARP コマンドを使って、IP アドレスとその IP アドレスを割り当てるカメラの MAC アドレスを入力する。

```
arp -s ＜本機の IP アドレス＞ ＜本機の MAC アドレス＞
ping -t ＜本機の IP アドレス＞
```

例：

```
arp -s 192.168.0.100 08-00-46-21-00-00
ping -t 192.168.0.100
```

**3** DOS画面に次の行が表示されたら[Ctrl]＋[C]を押す。停止します。

```
Reply from 192.168.0.100:bytes=32 time...
```

通常、「Request time out」が 5 回ほどで返答（Reply）を受け取ります。

**4** PING の実行が止まったら以下のコードを入力する。

```
arp -d 192.168.0.100
```

**ご注意**

返答が受け取れない場合は、以下のことを確認してください。
- 本機の電源を入れてから 5 分以内に ARP コマンドを入力しましたか？
  いったん電源を切ってから操作し直してください。
- カメラ本体の NETWORK インジケーターが消えていませんか？
  ネットワークを正しく接続してください。
- 割り当てられた IP アドレスがすでに使われていませんか？

その他

新しい IP アドレスを割り当ててください。
– ping コマンドを実行したコンピューターと本機が同じネットワークアドレスを持っていますか？
同じネットワークアドレスを入力してください。

# SNMP 設定方法について

本機は、SNMP（Simple Network Management Protocol）をサポートしています。SNMP マネージャーソフトウェアなどのソフトウェアを使用して、MIB-2 オブジェクトの読み出しや一部の MIB-2 オブジェクトの書き込みが可能です。また、トラップとして、電源投入時および再起動時に発生させる coldStart トラップ、SNMP の不正アクセスが発生した場合に通知する Authentication failure トラップをサポートしています。
また、本機は、CGI コマンドを使ってコミュニティ名やアクセス元の制限設定、読み書き権限設定、トラップ先のホスト設定、一部の MIB-2 オブジェクトの設定を行うことができます。これらの設定を行うには Level 4（設定メニューを開くための権限）の認証を経る必要があります。

## 1. 問い合わせコマンド

以下の CGI コマンドで SNMP Agent の設定情報を確認できます。

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inqjs=snmp
(JavaScript パラメータ形式 )
http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inq=snmp
( 通常の形式 )

上記の問い合わせによって、以下の設定情報を取得できます。ここでは inqjs=snmp（JavaScript パラメータ形式）で問い合わせ情報を取得した場合の設定情報について説明します。

```
var sysDescr="¥"SONY Network Camera SNC-
RZ30¥""                                   ・・・①
var sysObjectID="1.3.6.1.4.1.122.8501"    ・・・②
var sysLocation="¥"¥""                    ・・・③
var sysContact="¥"¥""                     ・・・④
var sysName="¥"¥""                        ・・・⑤
var snmpEnableAuthenTraps="1"             ・・・⑥
var community="public,0.0.0.0,read,1"     ・・・⑦
var community="private,192.168.0.101,
    write,2"                              ・・・⑧
var trap="public,192.168.0.101,1"         ・・・⑨
```

① mib-2.system.sysDescr.0 のインスタンスが記されます。これについては変更することはできません。

その他

② mib-2.system.sysObjectID.0 のインスタンスが記されます。これについても変更することはできません。

③ mib-2.system.sysLocation.0のインスタンスが記されます。この製品の設置場所に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時は何も設定されていません。

④ mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理者に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑤ mib-2.system.sysName.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理対象ノードを記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑥ mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスが記されます。この例では 1(enable) が設定されており、Authentication failure が発生した場合にはトラップが発生することになります。
2(disable) が設定されている場合には Authentication failure トラップは発生しません。

⑦ コミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレスを問わず (0.0.0.0)、read( 読み出し ) が可能となるように設定されています。

⑧ ⑦ と同様にコミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=2 という識別番号で、"private" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストからの SNMP 要求パケットに対して、read/write( 読み書き ) が可能となるように設定されています。

⑨ トラップ先のホスト名が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストに対してトラップが送信されるように設定されています。

## 2. 設定コマンド

SNMP に関する設定コマンドは以下のような形でサポートされています。

< メソッド >
GET, POST

< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi ?
<parameter>=<value>&<parameter>=...&...

まず、以下のパラメータを使用して設定を行います。

1) sysLocation=<string>
mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

2) sysContact=<string>
mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

3) sysName=<string>
mib-2.system.sysName.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。
<string> の長さは最大 255 文字です。

4) enaAuthTraps=<value>
mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスの値を設定します。<value> には 1（enable）または 2（disable）のいずれかを入力します。

5) community=<ID>, <rwAttr>, <communityName>, <IpAddressString>
コミュニティ名、および読み書き属性の設定を行います。<ID> は設定の識別番号 (1 ～ 8 のいずれか )、<rwAttr> は読み書き属性を表わす 1 文字 ("r"、"R"、"w"、"W" のいずれか )、<communityName> は設定するコミュニティ名、<IpAddressString> はアクセスを許可するホストの IP アドレスを記述します (任意のホストに許可する場合には 0.0.0.0 とします)。
例： 識別番号 2 に "private" というコミュニティ名で任意のホストに read/write を許可する
community=2,w,private,0.0.0.0

6) trap=<ID>,<communityName>, <IpAddressString>
トラップ送信先のホストを設定します。<ID> は設定の識別番号 (1 ～ 8 のいずれか )、<communityName> はトラップ送信時のコミュニティ名、<IpAddressString> はトラップ送信するホストの IP アドレスを設定します。
例： 識別番号 1 に "public" というコミュニティ名でのトラップ送信先を設定する。
trap=1,public,196.168.0.101

7) delcommunity=<ID>
既に設定されているコミュニティ設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されている community 設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

8) deltrap=<ID>
既に設定されているトラップ送信先のホスト設定を削除する場合に使用します。<ID> は既に設定されている trap 設定の識別番号（1 ～ 8 のいずれか）です。

上記 1) ～ 8) のパラメータを使用して SNMP 設定情報の変更が完了したら、問い合わせコマンドを使用して設定変更情報を確認します。変更した設定でよければ次の CGI コマンドを使用して SNMP を再起動させます。この際 、本機は再起動動作を行いますのでご注意ください。

### SNMP 再起動コマンド

< メソッド >
GET, POST
< コマンド >
http://ip_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi?snmpd=restart

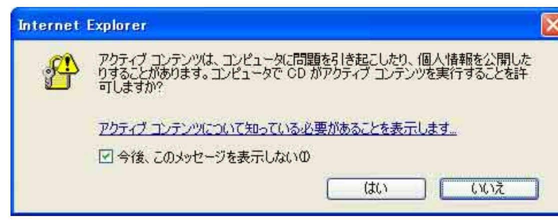


# Windows XP Service Pack 2 をご利用の場合

## ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program をインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

**「Internet Explorer」メッセージが表示された場合：**
［はい］をクリックする。



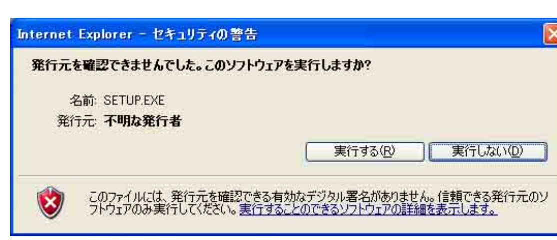

**「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」メッセージが表示された場合：**［実行］をクリックする。




**ご注意**

［保存］をクリックすると正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

**「Internet Explorer －セキュリティの警告」メッセージが表示された場合：**［実行する］をクリックする。

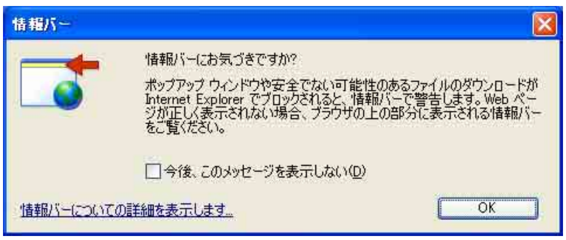



これでソフトウェアをインストールできます。

## ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

**「情報バー」メッセージが表示された場合：**［OK］をクリックする。




**「情報バー」が表示された場合：**情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。




**「Internet Explorer －セキュリティの警告」が表示された場合：**［インストールする］をクリックする。




これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや Activity detection 設定ページが表示されます。

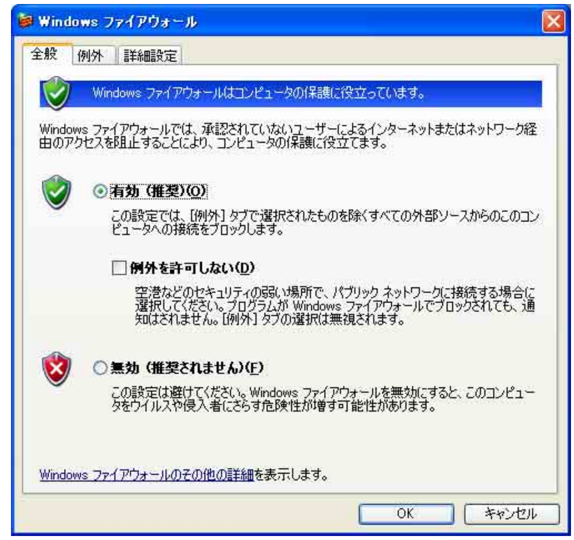
## Windows ファイアウォールの設定について

Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program が正常に動作しない場合があります。（リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。）この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

**1** Windows の［スタート］メニューから［コントロールパネル］を選択する。

**2** 作業する分野で［セキュリティセンター］を選択する。

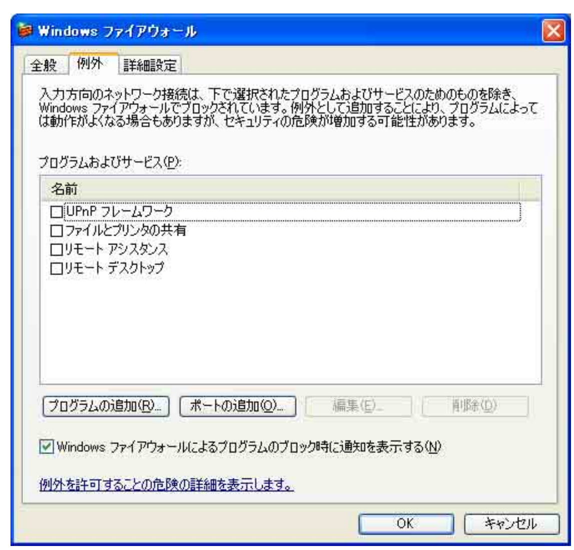
**3** 「Windows ファイアウォール」画面で［無効］を選択する。




これでリスト上にカメラが表示されるようになります。
［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

**4** ［例外］タブを選択する。

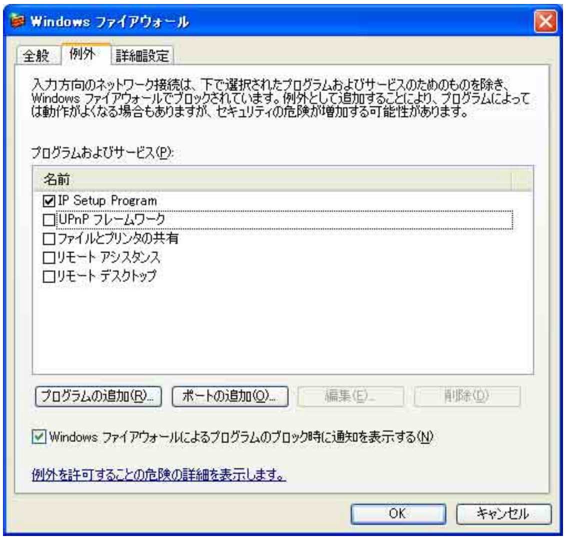
**5** ［プログラムの追加］を選択する。




**6** プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して［OK］をクリックする。

これで「プログラムおよびサービス」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

**7** ［OK］をクリックする。




以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

その他

# Windows Vista をご利用の場合

## ソフトウェアのインストールについて

CD-ROM から IP Setup Program をインストールするとき、アクティブコンテンツの警告メッセージが表示されることがあります。次のように操作してください。

**CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れたとき、自動再生のポップアップメッセージが表示された場合：**「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックする。




**「ユーザーアカウント制御 （認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示された場合：**「許可」をクリックする。

これでソフトウェアをインストールできます。

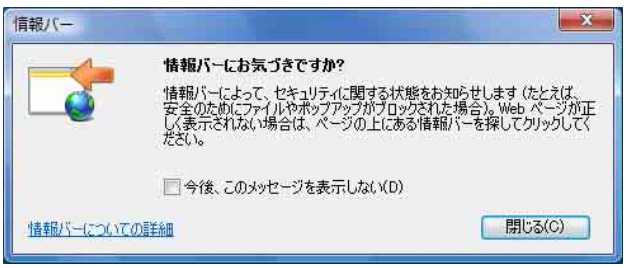
## ソフトウェアの起動について

IP Setup Program を起動するとき、「ユーザーアカウント制御　（認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックします。

## ActiveX コントロールのインストールについて

ActiveX コントロールがインストールされるとき、「情報バー」や「セキュリティ警告」が表示されることがあります。次のように操作してください。

**「情報バー」メッセージが表示された場合：**［閉じる］をクリックする。




**「情報バー」が表示された場合：**情報バーをクリックして［ActiveX コントロールのインストール］を選択する。




**「ユーザーアカウント制御（続行するにはあなたの許可が必要です）」メッセージが表示された場合：**「続行」をクリックする。

**「Internet Explorer アドオンインストーラーセキュリティの警告」が表示された場合：**［インストールする］をクリックする。




これで ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーや Activity detection 設定ページが表示されます。

## Windows ファイアウォールの設定について

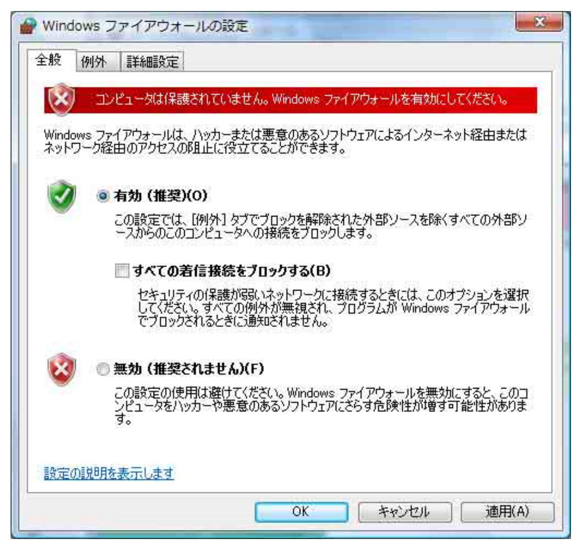
Windows ファイアウォールの設定によっては、IP Setup Program が正常に動作しない場合があります。（リスト上にカメラが 1 台も検出されないように見えます。）この場合、次のように Windows ファイアウォールの設定を確認してください。

**1**　Windows の［スタート］メニューから［設定］、［コントロールパネル］を選択する。

**2**　［Windows ファイアウォール］をクリックする。

**3**　「Windows ファイアウォールの有効化または無効化」を選択する。
「ユーザーアカウント制御　（続行するにはあなたの許可が必要です）」メッセージが表示されることがあります。この場合は、「続行」をクリックしてください。

**4**　［全般］タブで［無効］を選択する。



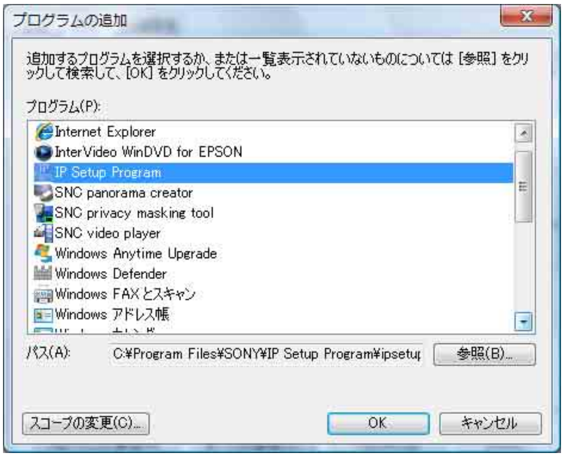

これでリスト上にカメラが表示されるようになります。
［有効］のままご使用になりたい場合は、引き続き、次の設定を行ってください。

**5**　［例外］タブを選択する。

**6**　［プログラムの追加］を選択する。

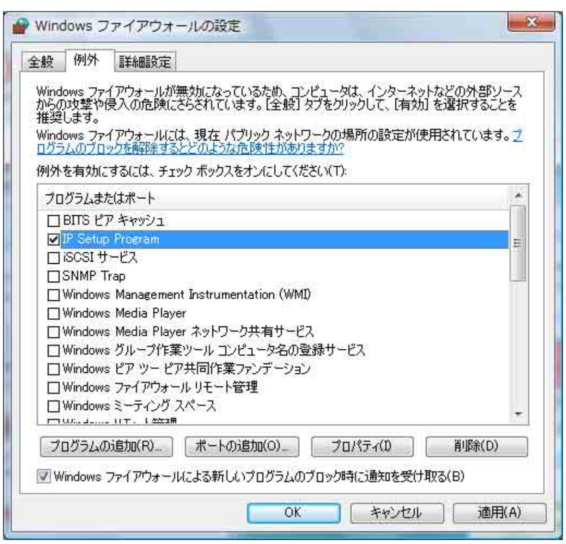
その他

**7** プログラムの追加ダイアログが表示されたら、IP Setup Program を選択して [ OK ] をクリックする。




これで「プログラムまたはポート」リストに、選択した IP Setup Program が追加されます。

**8** 「OK」をクリックする。




以上の設定が完了すると、IP Setup Program 上にローカルネットワーク上のカメラが表示されます。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/